

JA岡山
組合員・地域とともに歩む!
～協同活動と総合事業の好循環～

令和9年度
▲
令和7年度

JA岡山
営農振興
計画

地域くらし活性化計画

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

since2000
地域によるこびの
種をまく



もみー



めぶたん

JA岡山
公式キャラクター

令和7年7月 岡山市農業協同組合

ご あ い さ つ

組合員・利用者の皆さまには、ますますご健勝にて日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素はJA岡山の各事業に格別のご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、わが国の農業をめぐる状況は、農業就業人口の減少や高齢化等による耕作放棄地の増加などの農業生産基盤の弱体化に加え、各地で多発する地震や豪雨等の大規模災害による甚大な被害がもたらす影響が懸念されています。また、昨今のロシアのウクライナ侵攻を発端とする資材価格の上昇や円安に伴う物価高騰が農業経営を持続するうえで非常に大きな負担となっています。一方でSDGsや脱炭素化など、環境問題への意識が高まる中、農林水産省が示した「みどりの食料システム戦略」により、環境の負荷低減に配慮した農産物の生産など、環境調和型農業への具体的な取り組みが求められています。こうした情勢のもと、JAグループにおきましても、昨年11月、第36回岡山県JA大会を開催し、2025年の国際協同組合年をふまえ、JAグループ岡山が目指す「将来ビジョン(2030)」として、「持続可能で、強く元気な岡山県農業の実現」「豊かで、元気な地域社会の実現」「『食』と『農』を基軸とした地域に根差した『協同組合』の役割発揮」を掲げ、「食と農を基軸とした協同組合」として「持続可能な地域農業」の実現に向けて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に「協同」の精神・活動の『輪』を拡大するため、『不断の自己改革の実践』への取り組みを決議したところでございます。

これらを受けて、JA岡山では、令和4年度に策定した「JA岡山営農振興計画」における活動成果の検証と振り返りにより、管内農業の生産規模の維持・拡大と生産振興に向けて新たな課題を設定し、今後3年間で取り組むべき営農振興の基本方針、営農センター別の具体的振興方策をJA岡山営農振興計画「組合員・地域とともに歩む!～協同活動と総合事業の好循環～」として取りまとめました。

組合員皆様のさらなるご理解とご協力のもと本計画を実践することが、管内農業の活性化と生産基盤の強化に役立つことを期待しております。

終わりに、地域農業のますますの発展と皆さま方のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。



経営管理委員会会長
三宅 雅之



代表理事理事長
岡 信明

令和7年7月
岡山市農業協同組合

目次 Contents

ごあいさつ

I J A岡山管内の概要と農業構造 04-08

- 1 管内の概要
- 2 管内の農業構造

II 営農振興計画の振り返り 09-14

- 1 農畜産物の生産振興
- 2 販売戦略の強化と販売体制づくり
- 3 営農指導体制の充実
- 4 今後の課題

III 計画策定と考え方 15-18

- 1 計画策定の背景および趣旨
- 2 計画の方針と考え方

IV 営農振興計画の基本方針と 行動計画

19-34

- 1 農畜産物の生産振興
 - ①特色のある「JA岡山米」への品種転換と生産拡大
 - ②需要に応じた麦類の生産振興
 - ③持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化
 - ④地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産
 - ⑤和牛繁殖経営の安定
- 2 販売力の強化と販売体制づくり
【農畜産物販売高100億円の確保】
 - ①米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり
 - ②「JA」青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通
 - ③農産物直売所の販売機能の強化と店舗を基軸とした「地域農業の活性化」と「にぎわいの創出」
- 3 営農指導体制の充実
 - ①営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践
 - ②営農振興計画実践状況の見える化

V 営農センター別重点実施事項と 年次別行動計画

35-104

- | | |
|-------------|------------|
| 1 沖田営農センター | 5 備南営農センター |
| 2 西大寺営農センター | 6 高松営農センター |
| 3 瀬戸内営農センター | 7 建部営農センター |
| 4 藤田営農センター | |

VI 地域くらし活性化計画

105-110

- 1 基本方針
- 2 過去3年間（令和4年度～6年度）の実績
- 3 重点取組事項
 - （1）「食」と「農」を基軸とした地域コミュニティの活性化
 - （2）総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮
 - （3）支所などを拠点とした「JAくらしの活動」の実践
 - （4）正・准組合員とのメンバーシップの強化

JA岡山管内の 概要と農業構造

1 管内の概要

(1) 地域の概要

JA岡山は、平成12年7月1日に岡山市内14JA（岡山市、岡山市三幡、高島、岡山一宮、足守町、津高、岡山市高松、吉備町、興除、妹尾町、岡山市福田、岡山市藤田、西大寺、上道町）が合併して新生岡山市農業協同組合として発足し、平成15年（玉野灘崎、備南、みつ、加茂川町、長船町）、17年（福浜）および20年（せとうち）の合併を経て、現在は組合員数5万2千人超の広域JAとなっています。

当管内は、県の南部に位置し、瀬戸内海に注ぐ岡山県三大河川のうち、旭川と吉井川が形成した広大な岡山平野を中心に、北は吉備高原から南は瀬戸内海に至る約55キロメートル、東は備前市、西は倉敷市に接する約40キロメートル、総面積1,118平方キロメートルで、岡山県全体の15.7%を占めています。

地形は、南部は沖積平野と江戸時代から拓かれた広大な干拓地で、ほぼ平坦な地形となっており、北部は標高200～300mのなだらかな丘陵地、吉備高原となっています。

気候は温暖で、年平均気温15～17℃、年間降水量1,000～1,500mmで、特に冬の降水量は少なく、降雪は稀で、日照に恵まれた瀬戸内式気候です。

交通は、山陽新幹線、山陽本線ほかJR5支線、山陽自動車道、岡山自動車道、国道2号線の他4国道が管内を走り、京阪神、中国、四国、そして山陰への交通の要衝となっています。

(2) 組合員数・役員数・職員数

JA岡山の組合員・役員・職員数は次のとおりです。

単位:人・戸

組 合 員		役 員		職 員
正組合員数 (正組合員戸数)	23,981人 (19,245戸)	経営管理委員	30人	正職員 939人 (うち営農指導員 109人) (うちTAC指導員 29人)
准組合員数 (准組合員戸数)	28,930人 (23,154戸)	理 事	5人	契約職員 179人
合 計	52,911人 (42,399戸)	監 事	9人	派遣職員 52人

令和7年3月31日現在

2 管内の農業構造

(1) 農家数と経営耕地面積の推移

令和2年に農林業センサスが実施され、管内の総農家数は10,501戸で、10年前の平成22年当時から33.5%減、5年前の平成27年当時からは20%減、販売農家については、令和2年当時で6,674戸、10年前の平成22年当時から37%減、5年前の平成27年当時から22%減で、その後も農家人口の高齢化が進み、更に農家数および販売農家数ともに減少が進んでいるものと思われます。

(2) 組合員の推移

JA岡山では、農家数の減少とともに営農・販売・利用・購買事業を利用する正組合員は減少傾向にある中で、信用・共済事業を利用する准組合員数は年々増加傾向にあります。(令和4年度に比べて令和6年度は1,142人増)

(3) 販売品販売高の推移

JA岡山では、農産物等の販売品目数が令和6年度実績で50品目を超え、多様な農畜産物の安定供給に努めています。令和6年度の総販売額は107億円で、分類別に最も多いのは米で販売高全体の約34%(36.3億円)、次いで野菜が約24%(26.2億円)、果実が約17%(18.6億円)で、この3分類で販売高全体の約76%(81億円)を占めています。また、近年、農産物直売所における販売も堅調で、令和6年度には、全体の約14%(15.3億円)を占めるまでになっています。

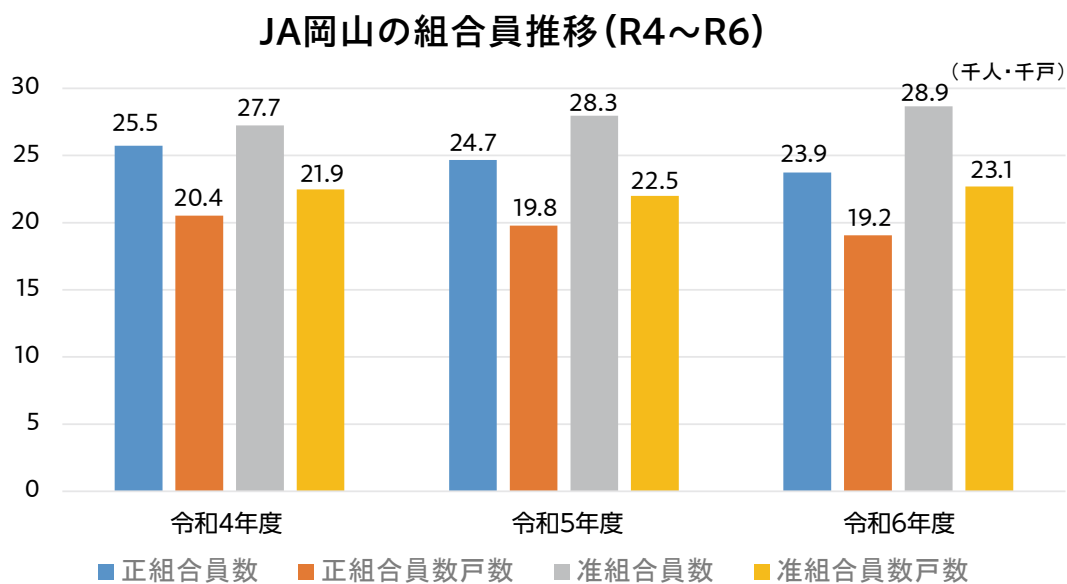
また、近年の異常気象による農作物の安定生産が困難となっており、分類別では、米について大型農家への農地集積と販売の多様化によりJA集荷量も年々減少する中で(R4対比:77.5%、R5対比:81.4%)、令和6年度については、米不足により近年にない高単価で推移し、販売高を押し上げる形となりました。(前年対比112%)

園芸作物について野菜では、施設野菜の栽培面積の減少と燃油高騰による焚き控え等で、出荷量が大幅に減少し、露地野菜では、猛暑による夏秋野菜の出荷量の減少、秋冬野菜では、はくさい・キャベツの全国的な品不足により高単価で推移し、令和6年度の野菜類全体の販売高を押し上げる形となりました。(前年対比112%)

果実では、主力のもも・ぶどうについて出荷量減の単価高で推移し、令和6年度の販売高は前年並みで推移しました。(前年対比99%)

花卉については、栽培面積の減少する中、天候不順が影響し、出荷量が大幅に減少し、単価高で推移するも令和6年度の販売高は前年並みとなりました。(前年対比100%)

(2) 組合員数の推移



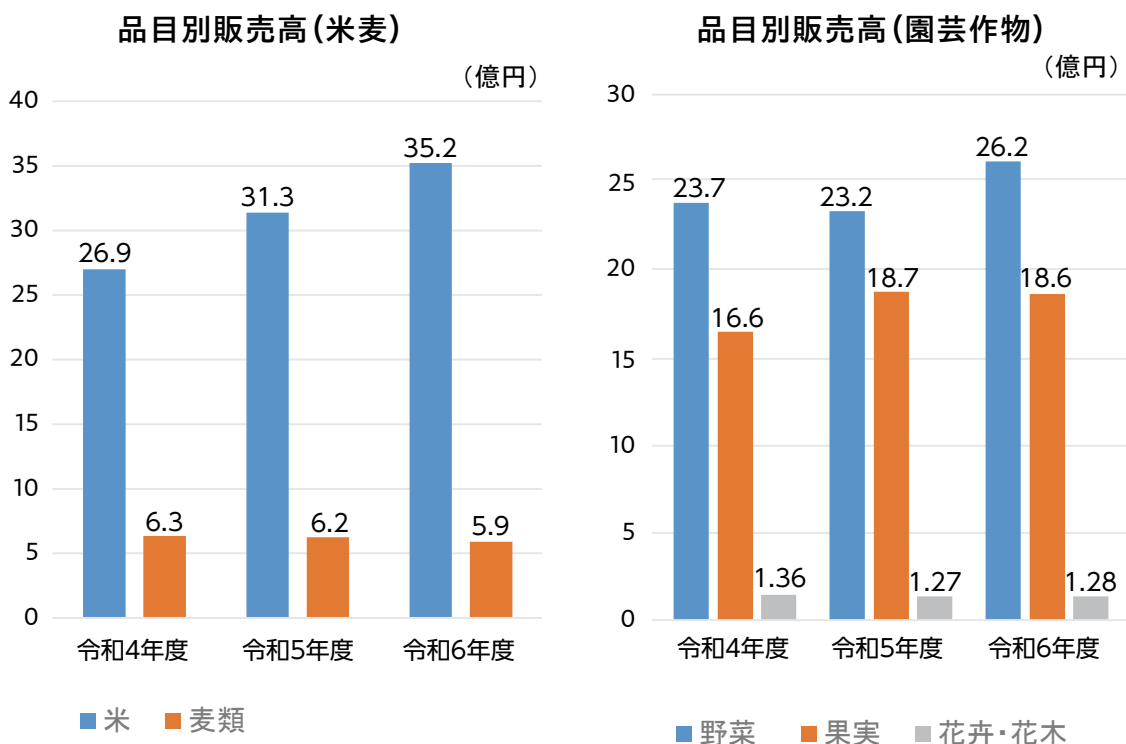
JA岡山組合員の推移 (R4～R6)

単位:人・戸

組合員(分類別)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
正組合員数	25,583	24,741	23,981
准組合員数	27,788	28,375	28,930
合計(組合員数)	53,371	53,116	52,911
正組合員戸数	20,423	19,820	19,245
准組合員戸数	21,988	22,593	23,154
合計(組合員戸数)	42,411	42,413	42,399

(3) 販売品販売高の推移

JA岡山の品目別販売高の推移(R4~R6)



JA岡山品目別販売高の推移(R4~R6)

単位:千円

品 種 名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
米	2,698,508	3,137,400	3,522,258
麦 類	635,058	625,937	591,217
雑穀・大豆	12,443	13,986	16,870
種子粳	83,449	85,684	108,716
種子麦	34,618	31,066	28,942
農産物計	3,464,076	3,894,073	4,268,003
野 菜	2,371,439	2,326,919	2,625,292
果 実	1,660,537	1,876,665	1,865,006
花卉・花木	136,824	127,459	128,715
その他(工芸作物・菌茸等)	10,978	10,295	7,830
園芸特産物計	4,179,778	4,341,338	4,626,843
畜 産	172,551	156,029	154,272
直売所	1,039,266	1,012,925	1,020,492
米〈買取販売〉	114,232	41,441	113,955
直売所〈買取販売〉	452,645	462,632	515,797
園芸〈買取販売〉	22,700	21,226	17,277
買取販売計	589,577	525,299	647,029
計	9,445,248	9,929,664	10,716,639

JA岡山のエリアと主な農産物



営農振興計画の振り返り

(基本方針3項目の取組実績)

1 農畜産物の生産振興

◇米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及拡大、高温耐性品種の調査、研究

米の安定多収技術の確立と普及拡大に向けて、GIS地図システムとセンシング技術を活用し、管内圃場においてドローンによる水稻の葉色診断を181haで実施しました。更なるシステム向上と診断分析の精度向上を目的に、近年普及が進む人工衛星による画像解析技術を活用した「栽培管理支援システム(ザルビオ)」を7営農センター管内の27戸、496haで導入を図りました。

「ヒノヒカリ」に代わる高温耐性品種について、「つやきらり」を選定し、産地適応性の実証試験を通じて、収量性、品質面において優位性を確認しました。また、食味の評価も良好で、令和7年度以降、高温耐性品種として普及拡大に取り組むこととなりました。

【品種別水稻作付面積構成比率の推移】(地域農業再生協議会実績)

単位:%

品種名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
コ シ ヒ カ リ	3.2 %	3.0 %	3.0 %
あ き た こ ま ち	1.8 %	1.7 %	1.4 %
き ん む す め	5.6 %	6.0 %	6.4 %
ヒ ノ ヒ カ リ	18.7 %	17.4 %	15.4 %
に こ ま る	8.6 %	9.2 %	11.0 %
朝 日	14.0 %	13.2 %	12.3 %
ア ケ ボ ノ	37.7 %	36.8 %	36.5 %
そ の 他	10.4 %	12.7 %	14.0 %
合 計	100.0 %	100.0 %	100.0 %

【高温耐性品種の実証試験結果】

品種名	高温耐性	収量性	品 質	成熟期	食 味
つやきらり	◎	◎	◎	中生	良好
ヒノヒカリ	△	○	△	中生	良好



◇麦類の高品質生産対策

麦類の高品質安定生産に向けて、ＪＡアグリ岡山、グリーンファーム岡山と連携し、生産者に対して粗タンパク含量結果を周知するとともに、数値の低い生産者に対して個別に実肥等の施肥指導を行い、粗タンパク含量の向上を図りました。また、パン用小麦の有望品種「せときらら」の実証試験を通じて普及拡大に取り組みました。

【管内麦類の面積推移】

単位:ha

作 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
二条大麦	1,845	1,873	1,892
小 麦	718	749	818
計	2,563	2,622	2,710

◇園芸品目の生産拡大と産地の活性化

園芸産地における栽培面積の維持・拡大に向けて営農振興支援事業を創設し、野菜、果樹等の園芸品目の生産拡大に取り組む中で、(野菜振興品目:36.6ha/3カ年、果樹:9.9ha/3カ年、花卉:2.3ha/3カ年)、近年、産地の高齢化、担い手農家等の減少により、園芸品目の生産拡大の取組実績が年々減少し、取り分け野菜類の生産振興に向けた課題が残りました。

果樹類については、もも、ぶどうの成園面積の維持・確保に向けて果樹苗木を確保し、主要産地での新改植を推進することで果樹産地の維持・拡大に繋げました。

花卉類については、新規栽培希望者向けの相談会を開催し、新規栽培者確保に努めました。

【営農振興支援事業取組実績】

単位:a・千円

作目	項 目	品 目	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			拡大面積 (a)	支援金 (千円)	拡大面積 (a)	支援金 (千円)	拡大面積 (a)	支援金 (千円)
野菜	振興品目	夏秋なす・はくさい・キャベツ レタス・たまねぎ	276	768	791	3,049	1,315	4,603
	既存産地品目	ほうれんそう・れんこん・いちご他	723	1,518	238	976	339	844
	野 菜 計		999	2,286	1,029	4,025	1,654	5,447
果樹	振興品目	清水白桃・おかやま夢白桃・白皇®	204	816	290	1,455	123	614
		ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	110	440	126	629	91	456
	その他品目	レモン他	37	75	27	73	14	28
	果 樹 計		351	1,331	443	2,157	228	1,098
花卉	施設・露地花卉	ハボタン・ケイトウ・トルコギキョウ他			16	98	24	107
	花 卉 計				16	98	24	107
合 計			1,350	3,617	1,488	6,280	1,906	6,652

新規就農者の受入体制の整備と新規就農者の確保・育成に向けて、関係機関との連絡会議、トータルサポート事業面接会、新規就農相談会等へ出席し、情報共有を図るとともに、農業体験研修ならびに実務研修を支援し、新規就農者の確保に努めました。(もも7名/3カ年、ぶどう16名/3カ年、野菜8名/3カ年)

また、ＪＡ農業塾(もも・ぶどう)を開講し、実地研修等を通じて、新規栽培者確保に努めました。(市場出荷※部会加入含む:もも5名・ぶどう12名/3カ年、直売所出荷:もも11名・ぶどう16名/3カ年)

【新規就農者の確保】

単位:名

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
岡 山 市	8 名	32 名	31 名
瀬 戸 内 市	2 名	3 名	6 名
玉 野 市	3 名		
吉備中央町	5 名	5 名	4 名
計	18 名	40 名	41 名

【農業塾受講者数と修了後の出荷先】

単位:名

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
もも農業塾	6 名 市場出荷 (部会加入含む) 3名 直売所出荷3名	10名 市場出荷 (部会加入含む) 2名 直売所出荷6名	5 名 直売所出荷2名
ぶどう農業塾	14 名 市場出荷 (部会加入含む) 1名 直売所出荷7名	15名 市場出荷 (部会加入含む) 2名 直売所出荷5名	16名 市場出荷 (部会加入含む) 9名 直売所出荷4名
瀬戸内 野菜帰農塾		6名 市場出荷 (部会加入含む) 2名 直売所出荷3名	7 名 市場出荷 (部会加入含む) 3名 直売所出荷3名
計	20名	31名	28名

◇和牛繁殖経営の安定

子牛の生産技術向上と「おかやま四ツ☆子牛」の出荷率の向上に向けて、関係機関と連携し、農家巡回を行うとともに、育成マニュアルを活用した飼養管理技術指導ならびに、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。

【おかやま四ツ☆子牛の出荷頭数と出荷率の推移】

単位:頭・%

分 類	令和4年度	比 率	令和5年度	比 率	令和6年度	比 率
おかやま四ツ☆子牛	31頭	12.5 %	32頭	14.3 %	37頭	12.4 %
一 般 子 牛	217頭	87.5 %	191頭	85.7 %	261頭	87.6 %
計	248頭		223頭		298頭	

◇大規模農家の法人化支援と集落営農組織の運営支援

担い手サポートセンターと連携し、大型農家、担い手経営体等への農業経営相談ならびに法人化に向けての支援を行いました。(支援件数:116経営体/3カ年)

集落営農組織への水田活用野菜の品目提案(キャベツ・ブロッコリー・かぼちゃ・たまねぎ・にんにく等)を行いました。



2 販売戦略の強化と販売体制づくり

◇農畜産物販売高103億円の確保

米については、JA岡山米の安定取引に向けて、取引先との良好な関係づくりのために商談を行い、実需者との結び付きの強化を図りました。(計126回/3カ年)

また、「里海米」の取組拡大に向けて、営農振興支援事業による支援金を創設し、面積拡大に繋げるとともに、実需者等の産地視察の受入れを通じて、「里海米」の認知度向上を図り、有利販売に繋げました。

JA岡山米の直接販売については、ホームセンターでの「玄米」の販売、量販店等での「オリジナル精米」の販売、直売所等での「今摺り米」「プライベート商品(晴々ロマン・温羅の舞)」の販売を行うとともに、はなやか中央店において「新米フェア」を開催し、食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」と高温耐性を備えた「にこまる」の販売促進PRを行いました。

園芸品目については、重点取引市場との連携による青果物の販売力強化に向けて、重点取引市場8社(関東、関西、地元市場)を設定し、需要期に合わせた安定出荷と市場との結び付きの強化を図り、安定取引による有利販売に繋げました。

【JA岡山米分類別・品種別出荷実績(令和4年産～令和6年産)】

単位:t・%

	令和4年	品種割合 (%)	令和5年	品種割合 (%)	令和6年	品種割合 (%)
コシヒカリ	474.1	3.7	431.4	3.50	396.2	3.7
あきたこまち	113.4	0.9	82.6	0.70	66.2	0.6
きぬむすめ	477.6	3.8	511.7	4.20	572.2	5.3
ヒノヒカリ	1,679.6	13.2	1,613.6	13.30	1,253.6	11.6
朝日	2,056.1	16.1	2,001.1	16.50	1,689.2	15.6
アケボノ	6,370.7	50.0	5,767.4	47.50	4,879.4	45.1
にこまる	1,531.6	12.0	1,692.2	13.90	1,916.2	17.7
※その他	40.4	0.3	50.8	0.40	47.1	0.4
一般うるち米計	12,743.4	100.0	12,150.8	100.0	10,820.1	100.0
もち米	42.1		36.2		39.8	
雄町	647.6	71.2	809.7	61.1	770.1	59.8
山田錦	261.5	28.8	514.4	38.8	515.7	40.1
その他醸造用玄米			1.2	0.1	0.8	0.1
醸造用玄米計	909.0	100.0	1,325.3	100.0	1,286.6	100.0
加工用米	948.3		969.0		870.3	
備蓄米	215.2		121.0		37.8	
米粉用米	42.3		32.7		32.3	
新市場開拓用米	84.0		92.1		126.0	
飼料用米	3,889.6		3,094.2		1,292.0	
合 計	18,873.8		17,821.2		14,504.9	

※その他…ひとめぼれ、キヌヒカリ、ミルキークイーン、恋の予感他

【重点取引市場8社別出荷重量（JA岡山全体）】

単位:t・%

市 場 名	野 菜						果 実					
	R4	割合(%)	R5	割合(%)	R6	割合(%)	R4	割合(%)	R5	割合(%)	R6	割合(%)
関東3社	602	4.1	383	2.8	354	3.3	160	11.8	238	16.4	226	16.4
関西3社	3,985	27.4	2,415	17.6	1,823	17.0	179	13.2	127	8.7	133	9.7
岡山2社	3,209	22.1	2,933	21.4	2,713	25.2	609	45.0	503	34.6	500	36.3
重点取引市場8社計	7,796	53.6	5,731	41.7	4,890	45.5	948	70.1	868	59.7	859	62.4
JA岡山(全体)	14,538		13,737		10,754		1,352		1,453		1,376	

【重点取引市場8社別販売高（JA岡山全体）】

単位:百万円・%

市 場 名	野 菜						果 実					
	R4	割合(%)	R5	割合(%)	R6	割合(%)	R4	割合(%)	R5	割合(%)	R6	割合(%)
関東3社	300.7	17.5	212.2	9.2	215.0	8.9	301.4	19.3	457.6	24.4	428.6	25.4
関西3社	793.5	34.0	522.1	22.6	523.7	21.7	296.0	19.0	224.9	12.0	232.4	13.8
岡山2社	622.3	26.8	611.8	26.4	782.3	32.4	597.4	38.3	623.4	33.3	670.9	39.8
重点取引市場8社計	1,716.5	73.9	1,346.1	58.1	1,521.0	63.0	1,194.8	76.5	1,305.9	69.7	1,331.9	79.0
JA岡山(全体)	2,323.9		2,315.3		2,414.4		1,561.1		1,875.0		1,686.0	

販売戦略の一環として、毎月2回（上期・下期）の産地情報ならび市場情勢について産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者からの情報を取りまとめ、情報共有を図ることで、㊤青果物の有利販売に繋がりました。

㊤ブランドの認知度向上については、コロナ禍により県内外イベントが制限される中で、岡山駅の「エキチカひろば」で管内農産物（もも・ぶどう・いちご）の販売を通じて㊤青果物の販促PRに取り組みました。

農産物の付加価値向上については、「清水白桃」「みかん」「レモン」の下位等級品を加工原料として確保し、「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」「レモン果汁」の委託製造を行い、県内菓子メーカー、酒造メーカーとの安定取引を通じて管内農産物のPRに繋がりました。（清水白桃シラップ漬け22.2t/3カ年、みかん果汁6.8t/3カ年、レモン果汁1.6t/3カ年）

農産物直売所の魅力向上に向けて、委託品と買取品とのバランスの取れた品揃えの充実を図るとともに、SNSを活用した産直まつり等のイベント開催告知など幅広い年齢層へのアプローチを行うことで、地産地消による「地域住民とのふれあい」と「にぎわいの創出」に取り組みました。（イベント開催：24回/3カ年）

農産物の買取販売強化に向けて、インターネット販売「花野果オンライン」を通じて、もも、ぶどう等の青果物、米の「にこまる」などの販売に取り組みました。

農産物直売所の新規出荷会員確保に向けて、広報誌「ぱれっと」への新規会員募集記事の掲載と営農センター等に募集チラシを配置し、新規登録会員ならびに委託輸送会員の確保に努めました。（新規登録会員151名増/3カ年、委託輸送会員27名増/3カ年）

3 営農指導体制の充実

◇TAC指導員体制の充実

営農指導の機能強化を目的に、営農センター内でのTACミーティングおよび本所でのTACリーダー会議を通じて、本所・営農センター間の営農活動に関する情報共有と連携強化を図るとともに、担い手農家等への訪問活動の強化により、営農指導活動を展開しました。

【担い手経営体等訪問件数:33,444件／3カ年(営農相談9,743件、商品提案8,111件、情報案内6,087件、情報収集4,079件、農業経営相談3,955件、その他1,469件)】

また、全農と連携し、肥料・農薬メーカーと同行訪問(商品紹介等)を行い、担い手農家等への情報提供を行いました。(7営農センター計841件／3カ年)

各営農センターにおいてTAC指導員の取組実践課題を設定し、TACリーダー会議や課題実践報告会において情報共有を行い、営農指導活動の見える化に取り組みました。

営農指導技術のスキルアップに取り組むため、令和6年度よりGH農場評価員養成講習会に参加し、参加者全員が評価員資格を取得しました。(8名:営農センター各1名、本所1名)

営農指導強化のため、営農センターからの要請により本所指導課職員を派遣し、新任TAC指導員ならびに園芸担当者との同行訪問を通じて、より実践的な営農指導に取り組みました。

【同行訪問件数 1,033回／3カ年(内訳:米麦28回、野菜229回、果樹420回、花卉356回)】

各営農センターのTAC指導員が主体となり、直売所出荷会員ならびに女性部向けに野菜栽培講習会を開催し、TAC指導員の育成と営農指導力の強化を図りました。(令和6年度)

4 今後の課題

1.農畜産物の生産振興に関して

- ・JA岡山版スマート農業ならびに環境負荷低減に向けた農業生産の普及拡大
- ・農業法人、担い手経営体との地域農業の活性化に向けた連携強化
- ・特色のあるJA岡山米の生産振興
- ・高温耐性品種「つやきらり」の作付推進による普及拡大
- ・麦類の安定生産ならびに粗タンパク含量向上に向けた栽培技術の普及拡大
- ・園芸既存産地の現状把握と産地活性化に向けた連携強化
- ・野菜振興品目の設定と提案型作付推進による野菜類の生産振興
- ・関係機関との連携強化によるトータルサポート事業への取り組みと産地連携による新規就農者の受入体制の整備
- ・新規就農者の農地確保ならびに農業融資等による就農支援

2.販売戦略の強化と販売体制づくりに関して

- ・JA岡山米の集荷率向上に向けた取組み
- ・実需者ニーズに応じた販売体制の強化
- ・㊤青果物の高品質安定出荷と重点取引市場との結び付きの強化と㊤園芸部会協議会を基軸とした品目産地間連携による長期安定出荷への取組み
- ・農産物直売所の集客力向上に向けた魅力ある店舗づくりと、「委託品」と「仕入品」のバランスの取れた販売体制の強化による品揃えの充実と販売力の向上

3.営農指導体制の充実

- ・TAC指導員の営農指導体制の強化と新任TAC指導員の確保・育成
- ・営農センター、本所、関係機関との連携による営農指導活動の強化
- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の拡充と結び付きの強化
- ・営農振興計画の実践に向けたTAC指導員活動の明確な目標設定と営農活動の見える化



計画策定と考え方

趣旨および考え方

1 計画策定の背景および趣旨

当ＪＡは岡山県の南部に位置し、岡山平野を中心に北は吉備高原から南は児島湾干拓地と広大な農地を有し、米麦栽培を中心に、園芸作物では千両なす、黄にら、青ねぎ、はくさい、キャベツ等の野菜、くだもの王国おかやまを代表するもも、ぶどう等の果樹栽培が盛んな地域です。

近年、農業就業人口の減少、担い手不足、耕作放棄地の増加などにより、農業情勢も目まぐるしく変化し、農業生産力の低下と販売高の減少が懸念されています。

当ＪＡでは「地域によるこびの種をまく」を経営理念とし、「不断の自己改革の実践」に取り組むとともに、「営農振興計画」と「地域くらし活性化計画」を策定し、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目標に、地域に根差した総合事業を展開しています。

- 「農業者の所得増大」については、農産物の販売力強化を重点課題とし、「生産から販売まで」をキーワードに多様化する実需者ニーズへの対応と重点取引先との連携を強化し、販売事業を展開します。
- 「農業生産の拡大」については、平成29年度より創設した「営農振興支援事業」を活用し、園芸品目の生産拡大、生産資材等のコスト低減、環境保全に対する取組支援を行います。
新規就農者確保の取り組みとして、「もも・ぶどう農業塾」を通じて部会への加入誘導により果樹の産地振興に繋がります。
- 営農指導面では、営農指導体制の拡充に取り組み、営農指導とＴＡＣ（担い手対応）を組み合わせたＴＡＣ指導員を設置し、本所と営農センターの営農活動に係る情報共有と連携強化により担い手農家等への訪問活動の強化に取り組みます。
- 「地域の活性化」については、農産物直売所を中心に管内農産物の地産地消による販売促進と「はなやか産直まつり」等のイベントを通じて、地域住民との交流による「にぎわいの創出」に取り組めます。

近年、日本国内の農業やＪＡを取り巻く環境は日々厳しさが増す中、「食と農を基軸とした協同組合」として「持続可能な地域農業」を実現するため、基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に継続して取り組み、組合員の皆さんから「なくてはならない組織」で在り続けるため、管内の農業振興の指針として、この度、令和7年度から令和9年度までの3カ年計画を策定しました。

2 計画の方針と考え方

組合員・地域とともに歩む！ ～協同活動と総合事業の好循環～

『届けたい、わたしたちJA岡山の想い』

「農業収入を増やしたい」「たくさんの人にお米や野菜・果物等を美味しく食べてほしい」「地域農業を守りたい」等、JA岡山では組合員農家等の願いや希望を、これからも一緒に育み、叶えていきます。

皆さんの「夢、や「希望、が、私たちJA岡山の営農振興に係る各種事業や営農活動を行う原動力です。

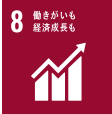
2025年の国際協同組合年をふまえ、JAグループ岡山で再提起された新たな「将来ビジョン(2030)」に基づき、①持続可能で、強く元気な岡山県農業の実現、②豊かで、元気な地域社会の実現、③『食』と『農』を基軸とした地域に根差した『協同組合』の役割発揮を主要テーマに事業活動を続けてまいります。

その中で、JA岡山では営農振興における「将来ビジョン」を設定し、そのビジョンに近づくために解決しなければならない「課題」を洗い出し、営農振興計画に係る「基本方針」、計画達成に向けた「重点実施事項」「具体的方策」を中期戦略として設定します。

また、この中期戦略をもとに、営農部各課ならびに、営農センターにおいて次期3カ年計画の具体的な「数値目標」および「行動計画」を策定してまいります。

SDGs17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	 2. 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	 3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	 6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	 8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
 10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する	 11. 住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	 12. つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
 13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	 14. 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	 15. 陸の豊かさを守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対応、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
 16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	 17. パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	

エス・ディー・ジーズ

※SDGsとは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称で、2015年9月に国連の193の加盟国で採択された国際社会の共通目標です。貧困や飢餓、気象変動といった人類・地球全体が直面する問題を解決し、すべての国々が子々孫々にわたる持続可能で豊かな暮らしを実現するために、17の目標を掲げ2030年までの達成をめざして世界各国で取り組みが進められています。

農業は食料生産を行う産業であり、一面では営農・流通にともなう環境負荷も発生します。そのため2, 7, 9, 13, 14, 15 など、直接関わる目標もあり、そのための技術や仕組みの開発・改善、その選択など、取り組んでいくべき事項が考えられます。また、農業はその他の多くの目標にも関わっている部分があります。これらの目標をめざしていくことで、農業・地域も持続的に発展していけるよう、関係者をもとより、消費者も含めて連携を深めていく必要があります。

今後、計画を進めていく上でSDGsを意識しながら取り組む目安にするため、今回の計画では、それぞれの項目に関わりのあると思われる目標のアイコンを表示しました。

『地域農業の活性化』 取組宣言

JA岡山では管内農業の現状と課題を把握し、
10年後のあるべき姿を見据えて、
地域農業の活性化に向けた向こう3カ年の営農振興計画を策定しました。
また、JA岡山では『地域によるこびの種をまく』を経営理念に、
人と人を繋げて農業と生活を守る組合員の願いを実現することを使命とし、
組合員・地域とともに歩み続ける組織として活動して参ります。

活動テーマ

『よりよい営農活動』に向けた
『提案型営農指導』による『農家所得の向上』



【よりよい営農活動】に向けて…。

「よりよい営農活動」とは、「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」「農場経営管理」の5分野の農業生産工程(GAP5分野)について、リスク評価とそれに基づく改善を実施し、様々なリスクから農業者・農産物を守り農業経営の改善と効率化に繋げる取り組みです。

農業者の取組

「農業の質を向上させ」
「農業の生産性を高め」
「環境に配慮しつつ」
安全・安心な農畜産物を安定的に生産すること。

JA岡山の役割

安全・安心な農畜産物の供給と持続可能な営農活動の確立に向けて、営農指導等の改善・強化により、様々な営農リスクから農業者を守り、農業経営の改善や効率化に繋げる。

具体的な取組

【営農リスク低減】

○営農リスクの低減に向けて、「食品安全」「環境保全」「労働安全」等の観点から営農指導の改善と強化を図る。

【事業の好循環】

○総合事業力(購買・販売・信用・共済との連携)の強化と実践により、農業者とJA間の事業の好循環に繋げる。

【提案型営農活動】

○農業経営の改善や効率化に向けて、対話による生産現場の課題とニーズ把握に基づく提案型営農活動を実践し、農業者所得の向上に繋げる。

【環境に配慮した営農活動】

○環境調和型農業・SDGsの取組を強化し、「地球にやさしい・環境に配慮した」営農活動に取り組む。

営農振興計画の 基本方針と行動計画

第36回岡山県JA大会で掲げるJAグループ岡山の『将来ビジョン(2030)』の
実現に向けて、『自己改革』の取り組みを通じて

「つなぐ」「つくる」「つたえる」を意識し、

『組合員・地域とともに歩む!～協同活動と総合事業の好循環～』をテーマに
「持続可能で、強く元気な岡山県農業の実現」「豊かで、元気な地域社会の実現」

「『食』と『農』を基軸とした地域に根差した『協同組合』の役割発揮」を
JA岡山営農振興計画の基本方針の3本柱として位置づけました。

1

農畜産物の
生産振興



2

販売力の強化と
販売体制づくり



3

営農指導
体制の充実





農畜産物の生産振興

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

【指導課】

数値目標等 (3カ年)	【ザルビオ導入面積】 496ha⇒750ha(254ha増)
	【特色のあるJA岡山米作付面積】 「きぬむすめ」 120ha⇒140ha(20ha増) 「にこまる」 400ha⇒590ha(190ha増) 「つやきらり」 450ha(新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・水稻の高温対策によりJA岡山米の高品質生産に取り組みます。
- ・食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」ならびに高温耐性を備えた「にこまる」の推進エリア設定による生産拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 「ザルビオ」のアカウント連携と診断結果に基づく情報分析を行い、TAC指導員活動を通じて農作物の生産性向上に繋げる。
- 高温耐性品種として、管内中北部エリアの「きぬむすめ」、南部エリアの「にこまる」「つやきらり」を設定し、需要に応じた生産拡大と収量性・品質の向上を図る。
- 「つやきらり」の生産計画に基づき、採種圃の確保に取り組む。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
○「ザルビオ」について管内利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析の共有により効率的な運用を図る。 利用者ニーズの把握による効率的なシステム構築と利用マニュアル等の作成により普及拡大に繋げる。 ○「つやきらり」の直播栽培適性試験と肥料試験による多収性の検証を行う。	○「ザルビオ」について管内利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析の共有により効率的な運用を図る。 他品目での普及性の検証と品目設定による新たなシステムの運用拡大に繋げる。 ○JA岡山版栽培ごよみを作成し、生産者への周知を図り高品質多収栽培に取り組む。	○「ザルビオ」について管内利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析の共有により効率的な運用を図る。 他品目での普及性の検証と品目設定による新たなシステムの運用拡大に繋げる。 ○JA岡山版栽培ごよみに基づき栽培指導等を行い「つやきらり」の高品質多収栽培に取り組む。

【米穀課】

数値目標等 (3カ年)	【里海米作付面積】	190ha⇒240ha (50ha増)
	【酒造好適米出荷枠】	24,000俵 (年間)
	【品種別施設受入重量 (3年後)】	「きぬむすめ」 400t
		「にこまる」 1,650t 「つやきらり」 740t

具体的方策

- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米推奨品種の普及拡大に取り組めます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。
- ・需要に応じた酒造好適米ならびに水田活用米穀の普及推進に取り組めます。
- ・JA岡山米「きぬむすめ」「にこまる」「つやきらり」への品種転換に伴う、ライスセンター、カンントリーエレベーター施設等の受入体制整備に取り組めます。

各年度の行動計画

令和7年度	令和8年度	令和9年度
○JA買取による生産者契約栽培米の取組拡大を図るとともに、農業法人、担い手経営体等への作付推進により「里海米」の生産拡大を図る。(アケボノ・にこまる・朝日) ○需要に応じた酒造好適米の出荷枠の確保と作付推進に取り組む。 ○米穀情勢に応じた水田活用米穀の作付推進に取り組む。 ○高温耐性品種「きぬむすめ」「にこまる」「つやきらり」への品種転換に伴うJAライスセンター等の荷受施設への受入体制の整備を行う。		
<里海米作付面積> 200ha <酒造好適米出荷枠> 24,000俵 <施設受入体制> 「きぬむすめ」 375t 「にこまる」 835t	<里海米作付面積> 218ha <酒造好適米出荷枠> 24,000俵 <施設受入体制> 「きぬむすめ」 395t 「にこまる」 1,295t 「つやきらり」 140t	<里海米作付面積> 240ha <酒造好適米出荷枠> 24,000俵 <施設受入体制> 「きぬむすめ」 400t 「にこまる」 1,650t 「つやきらり」 740t

JA岡山大型乾燥調製施設荷受計画

単位：t

センター名	施設名	品種名	6年実績	7年計画	8年計画	9年計画
沖 田	桑野ライスセンター	つやきらり			20	80
		ヒノヒカリ	114	85	65	
		朝 日	153	140	125	105
		アケボノ	616	620	565	515
		にこまる	233	300	420	515
		合 計	1,116	1,145	1,195	1,215
	高島ライスセンター	つやきらり			20	20
		ヒノヒカリ	18	15		
		雄町	284	285	285	285
		合 計	302	300	305	305
西大寺	松新カントリーエレベーター	つやきらり			(10)	80
		ヒノヒカリ	180	140	105	(10)
		アケボノ	666	670	610	555
		にこまる	112	200	285	335
		合 計	958	1,010	1,010	980
	水門ライスセンター	つやきらり			40	100
		ヒノヒカリ	109	85	65	40
		アケボノ	672	680	660	655
		合 計	781	765	765	795
	上道ライスセンター	つやきらり				80
		ヒノヒカリ	85	65	50	
		アケボノ	261	265	240	220
		山田錦	48	50	50	50
		合 計	394	380	340	350
瀬戸内	長船ライスセンター [完全サテライト]	つやきらり			(10)	(40)
		ヒノヒカリ	(121)	(90)	(70)	
		アケボノ	(275)	(275)	(250)	(225)
		合 計	396	365	330	265
	邑久カントリーエレベーター	つやきらり				80
		ヒノヒカリ	154	120	90	(10)
		朝 日	64	60	50	40
		アケボノ	266	270	240	215
		にこまる	160	215	305	415
		合 計	644	665	685	760
藤 田	吉備ライスセンター [完全サテライト]	朝 日	(54)	(50)	(35)	(30)
		アケボノ	(289)	(290)	(265)	(240)
		合 計	343	340	300	270
	興除カントリーエレベーター	つやきらり			20	80
		ヒノヒカリ	99	75	55	(5)
		朝 日	192	175	170	145
		アケボノ	684	685	620	565
		合 計	975	935	865	795
	藤田ライスセンター	つやきらり			(10)	(20)
		ヒノヒカリ	121	90	65	30
		朝 日	34	30	(30)	
		にこまる		70	165	250
		合 計	155	190	270	300
備 南	備南ライスセンター	つやきらり			40	220
		ヒノヒカリ	435	320	240	(10)
		朝 日	326	300	265	225
		アケボノ	688	690	630	575
		合 計	1,449	1,310	1,175	1,030

():サテライト

単位：t

センター名	施設名	品種名	6年実績	7年計画	8年計画	9年計画
高 松	足守ライスセンター [完全サテライト]	つやきらり				(60)
		あきたこまち	(36)	(35)	(35)	(30)
		ヒノヒカリ	(113)	(85)	(65)	
		アケボノ	(9)	(10)		
		にこまる	(32)	(50)	(120)	(135)
		合 計	190	180	220	225
	高松ライスセンター [8年より完全サテライト]	つやきらり				(40)
		ヒノヒカリ	(73)	(55)	(40)	
		アケボノ	206	210	(175)	(160)
		合 計	279	265	215	200
建 部	御津ライスセンター [完全サテライト]	きぬむすめ	(135)	(150)	(150)	(150)
		朝 日	(13)			
		合 計	148	150	150	150
	建部ライスセンター	あきたこまち	29	25	(25)	(20)
		きぬむすめ	361	385	395	400
		ヒノヒカリ	74	55	40	
		合 計	464	465	460	420
	加茂川ライスセンター	コシヒカリ	202	195	190	185
		あきたこまち	89	80	85	75
		朝 日	13			
		にこまる	32	50	120	135
		アケボノ			175	160
		合 計	336	325	570	555
	施設合計		7,780	7,700	7,565	7,430

() : サテライト

JA岡山大型乾燥調製施設品種別荷受計画

単位：t

品 種 名	6年実績	7年計画	8年計画	9年計画
コ シ ヒ カ リ	202	195	190	185
あ き た こ ま ち	118	105	85	75
き ん む す め	361	385	395	400
ヒ ノ ヒ カ リ	1,389	1,050	775	70
つ や き ら り			140	740
朝 日	782	705	610	515
ア ケ ボ ノ	4,059	4,090	3,740	3,460
に こ ま る	537	835	1,295	1,650
雄 町	284	285	285	285
山 田 錦	48	50	50	50
合 計	7,780	7,700	7,565	7,430



重点実施事項 ②

需要に応じた麦類の生産振興

【指導課・米穀課】

数値目標等 (3カ年)	【粗タンパク含量】	10%以上(確保)
	【ビール麦出荷量】	2,700t(確保)
	【「せときらら」作付拡大】	25ha⇒50ha(25ha増)

具体的方策

- ・粗タンパク含量の適性化に向けた実肥施用等の提案指導に取り組みます。
- ・麦作の適地化に向けた排水対策指導の徹底に取り組みます。
- ・需要に応じたビール大麦の出荷量確保に努めます。
- ・需要に応じたパン用小麦「せときらら」の作付拡大による出荷量確保に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 麦類の適地化に向けて圃場排水対策支援に取り組む。
- 赤カビ病等の適期防除による出荷品質向上を図り、計画出荷に繋げる。
- 播種前契約による生産量の確保と需要に応じた生産拡大と計画出荷により有利販売に努める。

令和7年度

- 農作業受委託事業を活用し、実肥施用体系の構築と実施面積の拡大に繋げ、粗タンパク含量向上に取り組む。

令和8年度

- 農作業受委託事業を活用し、実肥施用体系の構築と実施面積の拡大に繋げ、粗タンパク含量向上に取り組む。

令和9年度

- 農作業受委託事業を活用し、実肥施用体系の構築と実施面積の拡大に繋げ、粗タンパク含量向上に取り組む。

持続可能な地域農業の実現に向けた 園芸産地の活性化

【指導課・園芸課】

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす・アスパラガス・ブロッコリー	770a(拡大)
	【野菜振興品目】	
	はくさい・キャベツ・レタス・たまねぎ	450a(拡大)
	【既存産地品目】	780a(拡大)
	計	2,000a
	【果樹振興品目】	
	も も ※白鳳・清水白桃・おかやま夢白桃・白皇®・冬桃がたり	50a(拡大)
	ぶどう ※ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	250a(拡大)
	レモン	30a(拡大)
	計	330a
	【花卉振興品目】	計 30a(拡大)

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・®青果物の高品質安定出荷に向けた栽培技術の普及推進に取り組みます。
- ・園芸重点振興品目の設定と農業法人、集落営農組織への提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・®園芸部会協議会を基軸とした地域性を活かした品目間、産地間連携による園芸産地の生産振興に取り組みます。
- ・園芸産地のニーズに応じた補助事業活用による生産基盤強化に取り組みます。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。
- ・農業法人、担い手経営体等の農繁期の労働力確保に向けた農作業支援に取り組みます。



各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 「環境モニタリング装置」によるいちご・施設なすのハウス内環境の見える化とデータ蓄積により収量性・品質の向上に向けた有効性の検証と普及推進を図り、園芸施設品目の生産性向上に繋げる。
- 肥料・農薬メーカーと指導機関との連携強化を図り、果樹主要品目のJA岡山版作業防除暦・施肥例を作成し、安定生産に向けた栽培提案を通じて、生産性と出荷品質の向上を図る。
- 園芸主要産地の現状把握と産地基盤の強化に向けた取組提案を行い、産地の活性化に繋げる。
- 野菜産地の生産振興に向けて園芸重点振興品目の設定と作付提案書を作成し、農業法人、担い手経営体、集落営農組織等への作付推進により新たな野菜産地の形成を図る。
- 各種補助事業(国庫・単県)と農業制度資金の活用による栽培施設等の導入支援を行い、園芸産地の生産基盤の強化を図る。
- 農業塾による新規栽培者の確保と直売所等への出荷および部会への加入誘導を行い、担い手等の確保により産地の活性化に取り組む。
- 就農相談会、関係機関との連絡会議を通じた新規就農希望者の情報収集と実務研修から就農までのサポートを行い、担い手確保に取り組む。
- 部会での新規就農者の受入体制の整備と農地等の確保により、新規就農者の確保に取り組む。
- 営農振興支援事業の新たな支援策の創設と各種支援を通じて、農家経営のサポートに取り組む。
- 遊休農地を活用した露地花卉(ハボタン・りんどう)の作付推進と部会への加入誘導により花卉産地の活性化に繋げる。

令和7年度

<野菜重点振興品目>	
「なす」	28a(拡大)
「アスパラガス」	4a(拡大)
「ブロッコリー」	185a(新規)
計	217a
<野菜振興品目>	
「はくさい」	32a(拡大)
「キャベツ」	37a(拡大)
「レタス」	13a(拡大)
計	82a
<既存産地品目>175a(拡大)	
野菜計	474a
<果樹振興品目>	
「もも」	10a(拡大)
「ぶどう」	79a(拡大)
「レモン」	5a(拡大)
果樹計	94a
<花卉振興品目> 6a(拡大)	

令和8年度

<野菜重点振興品目>	
「なす」	50a(拡大)
「アスパラガス」	5a(拡大)
「ブロッコリー」	205a(拡大)
計	260a
<野菜振興品目>	
「はくさい」	40a(拡大)
「キャベツ」	45a(拡大)
「レタス」	22a(拡大)
「たまねぎ」	60a(拡大)
計	167a
<既存産地品目>257a(拡大)	
野菜計	684a
<果樹振興品目>	
「もも」	20a(拡大)
「ぶどう」	83a(拡大)
「レモン」	11a(拡大)
果樹計	114a
<花卉振興品目> 12a(拡大)	

令和9年度

<野菜重点振興品目>	
「なす」	67a(拡大)
「アスパラガス」	6a(拡大)
「ブロッコリー」	220a(拡大)
計	293a
<野菜振興品目>	
「はくさい」	63a(拡大)
「キャベツ」	53a(拡大)
「レタス」	30a(拡大)
「たまねぎ」	55a(拡大)
計	201a
<既存産地品目>348a(拡大)	
野菜計	842a
<果樹振興品目>	
「もも」	20a(拡大)
「ぶどう」	88a(拡大)
「レモン」	14a(拡大)
果樹計	122a
<花卉振興品目> 12a(拡大)	

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

【指導課】

数値目標等 (3カ年)	【普及拡大面積・取組件数(3年後)】 「里海米」 190ha⇒240ha(50ha増) 「緑肥作物」 85ha⇒110ha(25ha増) 「天敵農薬」 40件⇒70件(30件増) 【肥料実証試験】 3銘柄/年
----------------	--

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かきがらアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。
- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大を図ります。
- ・被覆コート肥料の流出対策として、代替肥料の現地実証に取り組めます。



各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 瀬戸内かきがらアグリ事業による「里海米」等の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 「みどりの食料システム戦略」に向けた「緑肥作物」と「天敵農薬」の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<普及拡大面積等> 「里海米」 10ha(拡大) 「緑肥作物」 7ha(拡大) <取組件数> 「天敵農薬」 7件(新規)	<普及拡大面積等> 「里海米」 18ha(拡大) 「緑肥作物」 8.5ha(拡大) <取組件数> 「天敵農薬」 10件(新規)	<普及拡大面積等> 「里海米」 22ha(拡大) 「緑肥作物」 9.5ha(拡大) <取組件数> 「天敵農薬」 13件(新規)

重点実施事項 ⑤

和牛繁殖経営の安定

【米穀課】

数値目標等
(3カ年)

【おかやま四ツ☆子牛出荷率】
13% (確保)

具体的方策

- ・「おかやま四ツ☆子牛」の出荷率向上に向けて関係機関との連携による生産技術向上に取り組めます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導に取り組む。
- 県と家畜改良事業団の種雄牛を活用した交配指導に取り組む。



販売力の強化と販売体制づくり

農畜産物販売高100億円の確保

米 麦 3,756百万円 野菜 2,200百万円 果実 2,000百万円 花卉 120百万円
 その他 279百万円 直売所 1,017百万円 買取販売 628百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり

【米穀課】

数値目標等 (3カ年)	【実需者との取引会議(商談)】 30回以上/年		
	【実需者直接販売取扱量(3年後)】		
	「里海米」	1,080t	[18,000俵]
	「つやきり」	3,240t	[54,000俵]
	【消費者直接販売】	500t	1億6千万円/年

具体的方策

- ・実需者との結び付き強化によるJA岡山米の有利販売に取り組みます。
- ・米の集荷率向上に向けて、農業法人、担い手経営体等のニーズ把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・「里海米」の取扱拡大に伴う有利販売に向けた実需者との結び付き強化と「買取米契約販売」の取組拡大を図ります。
- ・「つやきり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。
- ・JA岡山米の消費拡大に向けた直接販売強化に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握により、米の集荷率向上に向けた提案活動に繋げる。
- JA買取による生産者契約栽培米の取組拡大により、JA岡山米の集荷率向上に繋げる。
- 安定取引と有利販売に向けた重要取引先との商談等を行い、情報共有と販促活動により実需者との結び付き強化を図る。
- 「つやきり」の「買取米契約販売」による販路開拓と実需者との結び付き強化により有利販売に取り組む。
- 米の消費者直接販売分の数量確保により、「玄米」「今摺り米」「プライベート商品」等、特色のある「JA岡山米」の直接販売に取り組み、販売高の向上を目指す。

令和7年度

<実需者直接販売>
 「里海米」960t(16,000俵)
 「つやきり」78t(1,300俵)
 <消費者直接販売>
 「各銘柄」500t(8,300俵)

令和8年度

<実需者直接販売>
 「里海米」1,020t(17,000俵)
 「つやきり」870t(14,500俵)
 <消費者直接販売>
 「各銘柄」500t(8,300俵)

令和9年度

<実需者直接販売>
 「里海米」1,080t(18,000俵)
 「つやきり」3,240t(54,000俵)
 <消費者直接販売>
 「各銘柄」500t(8,300俵)

㊦青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通

【園芸課】

数値目標等 (3カ年)	【重点取引市場(9社)年間取扱高】 8,000 t・27億円
	【内訳】 <野菜> 7,000t[全出荷量の7割]・14億円
	<果実> 1,000t[全出荷量の8割]・13億円
	【販売担当者会議】 4回/年
	【農産物消費宣伝PR活動】 5回/年
	【一次加工品取扱高】 2,000万円/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・㊦青果物の集出荷率向上に向けて、出荷者ニーズの把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・園芸販売担当者会議での市場情勢等の情報共有により販売担当者の資質向上に努めます。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度向上を図ります。
- ・果実等の下位等級品の買取強化と一次加工品の製造販売を通じて、㊦青果物の付加価値向上に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 安定出荷と有利販売に向けた重点取引市場別の出荷販売計画の策定と㊦園芸部会協議会を基軸とした産地間連携により市場集約を図り、販売高向上に繋げる。
- 産地情報(生産・出荷)の発信と共有を通じて、重点取引市場との結び付き強化を図る。
- 重点取引市場との販売会議ならびにJA組織内での園芸販売担当者会議を通じて、市場・販売情勢に伴う有利販売に向けての情報共有を図り、㊦青果物の販売高向上に繋げる。
- 重点取引市場での販促PR活動、地産地消イベントへの参加により、㊦ブランドの実需者等への認知度向上を図る。
- 青果物(もも・みかん・レモン等)の下位等級品の買取強化、外部委託による一次加工品の計画製造と取引先への安定供給により、㊦青果物の付加価値向上に取り組む。

令和7年度

- 園芸主要産地における生産出荷販売の状況把握と課題解決に向けた情報整理を行う。

令和8年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

令和9年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

農産物直売所の販売機能の強化と店舗を基軸とした「地域農業の活性化」と「にぎわいの創出」

【園芸課(直売担当)】

数値目標等 (3カ年)	【直売所年間取扱高(全店舗)】	22億円/年
	【内訳】委託販売品	10.2億円/年
	買取販売品	5.0億円/年
	その他(精肉・鮮魚他)	6.8億円/年
	【新規出荷会員の確保】	50名/年
	【直売所イベントの開催】	8回/年
	【利用者アンケートの実施】	2回/年

具体的方策

- ・生産者の顔が見える安全・安心な農産物販売と地産地消を通じた「消費者」との結び付きの強化により地域農業の活性化に繋がります。
- ・消費者ニーズに基づく「委託品」と「仕入品(買取販売)」のバランスの取れた品揃えの充実と販売力強化による集客力向上を図ります。
- ・消費者ニーズに基づくインターネット販売「花野果オンライン」の品揃えの充実と販売強化に取り組みます。
- ・新規出荷会員の確保と委託輸送の拡充による直売所店舗の機能強化を図ります。
- ・地域住民との交流の場として、JA岡山女性部との連携による「はなやか産直まつり」等の各種イベント開催とSNSを活用した情報発信により、集客力の向上を図ります。
- ・直売所利用者ならびに出荷会員ニーズの把握とフィードバックにより、直売所店舗の利便性向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農産物直売所における安全・安心な農産物販売、魅力ある店舗づくりによる集客力向上と販売強化に取り組み、出荷会員の所得向上と地域農業の活性化に繋げる。
- 直売所出荷会員ならびに管内組合員向けに野菜栽培講習会を開催し、栽培技術の向上と新規出荷会員の確保、新規品目の作付提案により、店舗の品揃えの充実と販売高向上を目指す。
- 店舗毎の「委託品」と「仕入品(買取販売)」のバランスの取れた品揃えの充実により、直売所の販売強化に取り組む。
- ギフト需要期の農産物の買取強化と品揃えの充実を図り、顧客満足度の向上とともに販売高向上を目指す。
- インターネット販売「花野果オンライン」の消費者ニーズに基づく品揃えの充実と販売強化により販売高向上に繋げる。
- 広報誌等を活用した新規出荷会員の募集により、出荷会員数の確保に努める。
- 委託輸送の拡充による品揃えの充実と集客力向上を図り、直売所店舗の機能向上に繋げる。
- 各種イベントの開催により「地域住民との交流」と「にぎわいの創出」を図るとともに、SNSを活用した情報発信により集客力向上に繋げ、直売所の販売機能の強化と出荷会員の所得向上を図り、地域農業の活性化に取り組む。
- 大学連携によるPBL(課題解決型学習)を活用し、アンケート実施による利用者ニーズの把握と情報分析を行い利用者満足度向上を図るとともに、分析結果の共有とフィードバックにより直売所の利便性の向上と店舗運営の改善に取り組む。

営農指導体制の充実

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

【指導課】

数値目標等 (3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【TACリーダー会議】	12回/年
【GH農場評価員認定取得】	15名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	各営農センター1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制強化に取り組みます。
- ・担い手経営体の経営基盤強化に向けた法人化支援に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。
- ・外部研修制度を活用し、営農アドバイザーとして、専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。
- ・新任TAC指導員の確保、育成を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員による担い手経営体、大型農家等への農家訪問活動を通じて、ニーズの把握と提案型営農活動により営農指導を図る。
- TACリーダー会議を通じて、営農センター、本所関係部署、関係機関との営農指導事業に係る情報共有と連携強化を図り、「よりよい営農活動」の実践に繋げる。
- GH農場評価制度を活用し、「栽培指導」と「営農相談」を組み合わせた営農指導技術のレベルアップと担い手経営体、大型農家等への提案活動を通じて「よりよい営農活動」の実践に取り組む。
- 本所指導課と連携し、同行巡回指導を通じて新任TAC指導員の現場レベルでの栽培技術指導のレベル向上を図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導に関する基礎知識の習得と営農相談等の対話技術の向上に取り組む。

営農振興計画実践状況の見える化

【指導課・米穀課・園芸課】

数値目標等 (3カ年)	【TAC指導員課題実践】 1課題/年 【営農振興計画実践報告会】 4回(年間/四半期)
----------------	--

具体的方策

- ・営農振興計画に基づき、地域農業の現状把握と課題解決に向けたTAC指導員課題実践活動目標の設定を行います。
- ・営農振興計画に基づくTAC指導員課題実践の取組状況について、組合員への周知を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農振興計画取組実践の活動について、JA広報誌・HP等への掲載を通じて組合員への情報発信を図る。



MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

営農センター別重点実施事項と 年次別行動計画





営農センター別計画

沖田営農センター

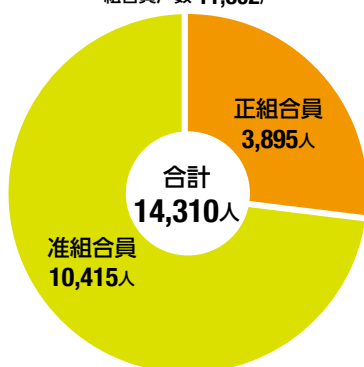
1 活動テーマ

「岡山市の台所」としての伝統的産地の活力と意欲ある農業を目指す。

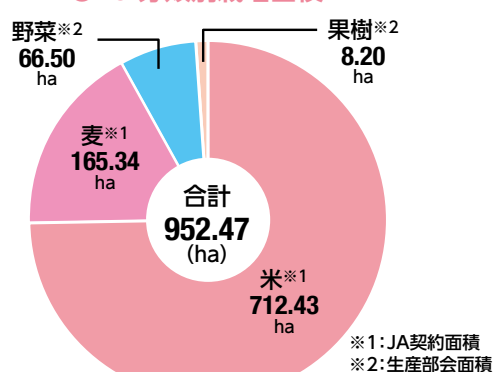
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

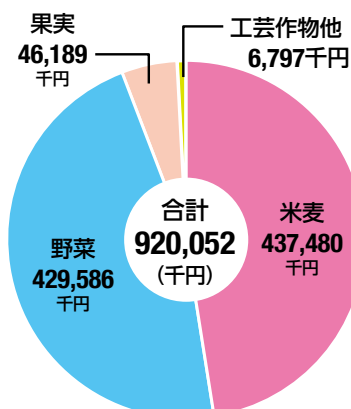
組合員戸数 11,802戸



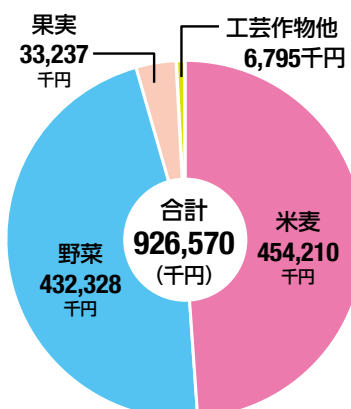
●R6 分類別栽培面積



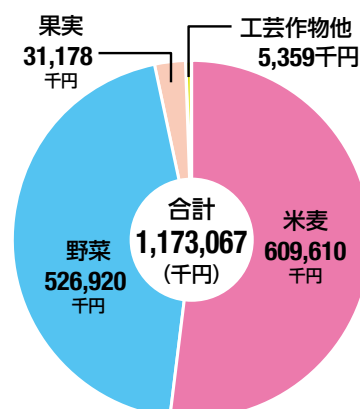
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



当管内は、岡山市の中心部に位置し、市街化地域と市街化調整区域の混在した地域であり、古くから続く伝統的な園芸地帯での野菜等の生産と干拓地域に広がる穀倉地帯での米穀生産からなる地域です。

昨今、管内全体において農家の世代交代や農地の宅地化に伴い、農地の維持確保や農業経営を継続することが困難な状況であり、併せて、生産者の高齢化による遊休農地の増加や後継者不足・技術継承問題などが課題となっています。

岡山市中心部の利点を活かし、引き続き園芸産地として身近な存在の「岡山市の台所」をキャッチフレーズに活動を行い、伝統的な園芸産地を維持できるような品目の選定と営農指導等により出荷品質向上と収益性向上を図ります。

また、穀倉地帯においては、行政・各関係機関と連携し、農地の集約による農業生産の効率化を図るとともに、需要のある品目の作付提案により農業者の所得増大に努めます。

1. 農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組みます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組みます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組みます。

2. 販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。
- ・㊤青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組みます。

3. 営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組みます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組みます。

【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】

30ha

【特色のあるJA岡山米作付面積】

「にこまる」 95ha ⇒ 100ha (5ha増)

「つやきらり」 60ha (新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・実需者ニーズのあるJA岡山米の推奨品種の普及拡大に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度

- 「ザルビオ」のアカウント連携による情報分析に基づく効率的運用と利用マニュアルを作成する。
- 高温耐性品種「にこまる」「つやきらり」への品種転換を推進し、普及拡大に向けた栽培技術の検証を行う。

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」1.0ha(拡大)
「つやきらり」0.8ha(新規)

令和8年度

- 登録農家との連携による圃場別の診断結果に基づく情報分析と検証を行う。
- 高温耐性品種への転換と需要に応じた生産拡大を図るとともに、栽培技術を確立し生産者への普及拡大を図る。

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」2ha(拡大)
「つやきらり」8ha(拡大)

令和9年度

- 登録農家への分析結果の報告と効率的運用に向けた情報共有により農産物の生産性向上を図る。
- 高温耐性品種への転換と需要に応じた生産拡大を図るとともに、講習会等で栽培技術を指導し、収量性・出荷品質の向上により、農家所得の向上を図る。

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」 2ha(拡大)
「つやきらり」51.2ha(拡大)

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化

数値目標等
(3カ年)

【野菜重点振興品目】

なす(夏秋)・ブロッコリー 80a(拡大)

【野菜振興品目】

キャベツ・レタス類・たまねぎ 55a(拡大)

【既存産地品目】

ブランド野菜※・軟弱野菜他 105a(拡大)

※青ねぎ・黄にら・パクチー

計 240a

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・㊦青果物の高品質安定出荷に向けた栽培技術の普及推進に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体等への提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者の確保と部会への加入誘導を図ります。



各年度の行動計画

令和7年度

- 気象観測装置を導入し、気象・気温・日照等のデータを収集し、病虫害防除や栽培管理に向けた有効性の検証を行う。(試験圃場の設置)
- 品目別市場調査による販売計画の検討と市場との連携による作付品目の検討を行う。
- 生産部会を対象とした土壌診断や品種試験等を行い、既存産地の活性化を図る。
- 園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組を検証し、提案を行う。
- 関係機関と連携し新規就農者の確保と部会への加入活動により産地の活性化を図ります。

<野菜重点振興品目>
「なす(夏秋)」8a(拡大)
「ブロッコリー」10a(新規)
<野菜振興品目>
「キャベツ」 5a(拡大)
「レタス類」 1a(拡大)
<既存産地品目>
「ブランド野菜」12a(拡大)
「軟弱野菜他」14a(拡大)
計 50a

令和8年度

- 気象観測装置を活用し、気象・気温・日照等のデータを集積と病虫害防除や栽培管理に向けた有効性の検証結果をもとに産地全体の生産性の向上に取り組む。(部会内の情報共有)
- 品目別市場調査による販売計画の作成と市場との連携による作付品目の普及推進を図る。
- 生産部会を対象とした土壌診断や品種試験等の結果のデータを共有し、産地の活性化を図る。
- 園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組を検証し、提案を行う。
- 関係機関と連携し新規就農者の確保と部会への加入活動により産地の活性化を図ります。

<野菜重点振興品目>
「なす(夏秋)」5a(拡大)
「ブロッコリー」20a(拡大)
<野菜振興品目>
「キャベツ」 5a(拡大)
「レタス類」 9a(拡大)
「たまねぎ」 5a(拡大)
<既存産地品目>
「ブランド野菜」14a(拡大)
「軟弱野菜他」22a(拡大)
計 80a

令和9年度

- 気象観測装置を活用し、気象・気温・日照等のデータを集積と病虫害防除や栽培管理に向けた有効性の検証結果をもとに普及推進に取り組む。(活用方法の検討)
- 品目別市場調査による販売計画の作成と市場との連携による作付品目の普及拡大を図る。
- 共有された情報をもとに、土壌改善のための施肥指導や品種提案を行い、既存産地の活性化を図る。
- 園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組を検証し、提案を行う。
- 関係機関と連携し新規就農者の確保と部会への加入活動により産地の活性化を図ります。

<野菜重点振興品目>
「なす(夏秋)」7a(拡大)
「ブロッコリー」30a(拡大)
<野菜振興品目>
「キャベツ」 10a(拡大)
「レタス類」 10a(拡大)
「たまねぎ」 10a(拡大)
<既存産地品目>
「ブランド野菜」19a(拡大)
「軟弱野菜他」24a(拡大)
計 110a

重点実施事項 ③

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等 (3カ年)

【普及拡大面積】	「里海米」	7ha(拡大)
	「緑肥作物」	1ha(拡大)
【肥料実証試験】	1銘柄/年	

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かがらアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。
- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」の普及拡大を図ります。
- ・被覆コート肥料の流出対策として、代替肥料の現地実証に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興支援事業策を活用し、環境負荷低減に向けた農業生産への理解と取組を推進する。
- 瀬戸内かがらアグリ事業を活用した「里海米」等の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 「みどりの食料システム戦略」に向けた「緑肥作物」の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和7年度

<普及拡大面積等>
「里海米」 1.0ha(拡大)

令和8年度

<普及拡大面積等>
「里海米」 3.0ha(拡大)
「緑肥作物」 0.5ha(拡大)

令和9年度

<普及拡大面積等>
「里海米」 3.0ha(拡大)
「緑肥作物」 0.5ha(拡大)

【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 10億円の確保

米 麦 530百万円 野菜 430百万円 果実 36百万円
工芸作物他 4百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた 新たな販売流通の仕組みづくり

数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里海米」 5,300俵(3年後)
「つやきらり」 7,200俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

<集荷目標>
「里海米」 4,700俵
「つやきらり」 100俵

令和8年度

<集荷目標>
「里海米」 5,000俵
「つやきらり」 960俵

令和9年度

<集荷目標>
「里海米」 5,300俵
「つやきらり」 7,200俵

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等
(3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】

740t・3.0億円

〔内訳〕

<野菜> 700t〔全出荷量の7割〕・2.7億円

<果樹> 40t〔全出荷量の10割〕・0.3億円

【販売担当者会議】

6回/年

【農産物消費宣伝PR活動】

3回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・園芸販売担当者の育成と市場情勢に応じた販売スキルの向上を図ります。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 市場販売会議による市場情勢の把握と出荷販売提案による重点取引市場との連携強化を図る。
- 重点取引市場との販売会議と市場視察により、市場情勢の把握と情報共有を通じて販売担当者のスキルアップを図る。
- 実需者への販促PR活動による㊦産地ブランドの認知度向上により有利販売に繋げる。

令和7年度

- 園芸主要産地における生産出荷販売の状況把握と課題解決に向けた情報整理を行う。

令和8年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

令和9年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等 (3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【TACミーティング】	1回/月
【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 担い手経営体等への訪問活動を通じて農家ニーズを把握し、肥料や農薬の提案や営農指導を行う。
- TACミーティングを定期的で開催し、営農指導活動の情報共有を図る。
- 本所(営農部・経済部)と営農センターとの営農指導事業に係る連携強化を図り「よりよい営農活動」の実践に取り組む。
- GH農場評価制度を活用し、営農指導技術のスキルアップを図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。
- TAC指導員の研修会等への積極的な参加を図る。

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた取組課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。





営農センター別計画

西大寺営農センター

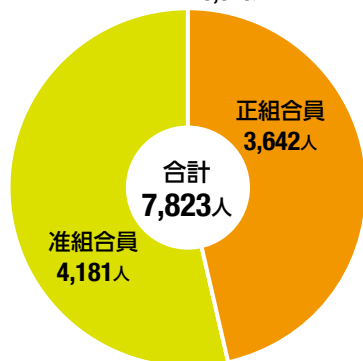
1 活動テーマ

地域とともに！持続可能な農業を目指す。

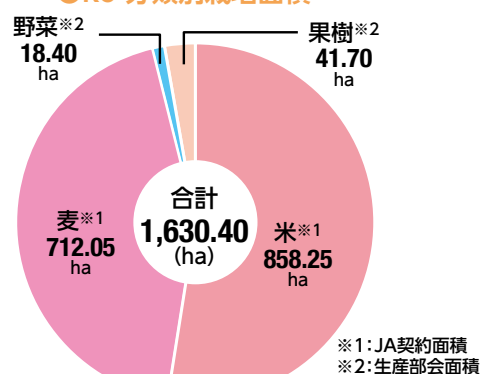
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

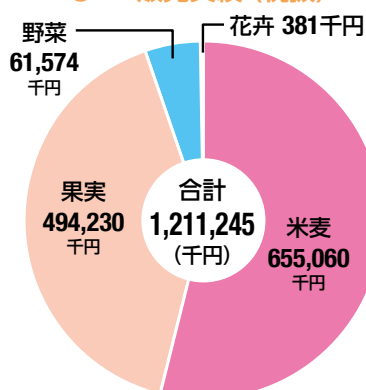
組合員戸数 6,376戸



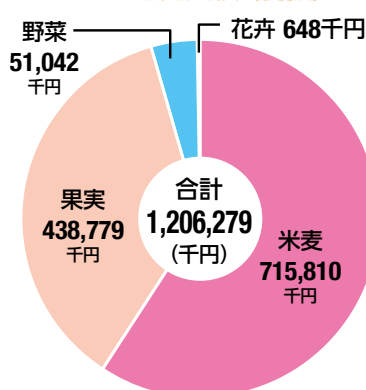
●R6 分類別栽培面積



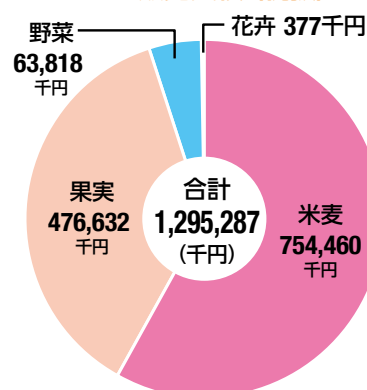
●R4 販売実績（税抜）



●R5 販売実績（税抜）



●R6 販売実績（税抜）



当管内は、岡山市東部エリアを活動の中心としており、米麦、果樹、野菜など多様な品目での営農が展開されています。

生産者の高齢化により生産者数、生産面積、生産量ともに減少傾向となっていますが、意欲的に農業に取り組む若手農業者の活躍もあり、農業に参入しやすい体制の構築を強く求められています。

農産物については有利販売を目指し、市場担当者等と緊密に連絡を取るよう努めています。

今後の農産物の生産振興や販売力の強化、営農指導など、地域の担い手と協力し、持続可能な農業を目指します。

1. 農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組みます。
- ・需要に応じた麦類の生産振興に取り組みます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組みます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組みます。

2. 販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。
- ・㊤青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組みます。

3. 営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組みます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組みます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】 60ha

【特色のあるJA岡山米作付面積】

「にこまる」 38ha ⇒ 100ha (62ha増)

「つやきらり」 80ha (新規拡大)

「里海米」 7ha ⇒ 17ha (10ha増)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米の推奨品種の普及拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度

- 「ザルビオ」のアカウント連携による情報分析に基づく効率的運用と利用マニュアルを作成する。
- ザルビオの有効性を確認し、導入推進に繋げる。
(5件/141ha⇒7件/160ha)
- 関係機関と連携し、高温耐性品種の作付拡大を図る。
- 「つやきらり」の直播栽培試験に取り組み、適応性検証を通じて普及推進に取り組む。
- 農業法人、担い手経営体への「里海米」の普及推進と部会への加入誘導により生産拡大に取り組む。

<岡山米作付拡大面積>
 「にこまる」20ha(拡大)
 「つやきらり」1.8ha(新規)
 「里海米」1ha(拡大)

令和8年度

- 登録農家との連携による圃場別の診断結果に基づく情報分析と検証を行う。
- ザルビオの有効性を確認し、導入推進に繋げる。
(7件/160ha⇒9件/180ha)
- 関係機関と連携し、高温耐性品種の作付拡大を図る。
- 「つやきらり」の直播栽培の継続試験に取り組み、普及拡大に取り組む。
- 農業法人、担い手経営体への「里海米」の普及推進と部会への加入誘導により生産拡大に取り組む。

<岡山米作付拡大面積>
 「にこまる」20ha(拡大)
 「つやきらり」18ha(拡大)
 「里海米」3ha(拡大)

令和9年度

- 登録農家への分析結果の報告と効率的運用に向けた情報共有により農産物の生産性向上を図る。
- ザルビオの有効性を確認し、導入推進に繋げる。
(9件/180ha⇒11件/200ha)
- 関係機関と連携し、高温耐性品種の作付拡大を図る。
- 普及推進エリアを設定し、「つやきらり」の生産拡大に取り組む。
- 農業法人、担い手経営体への「里海米」の普及推進と部会への加入誘導により生産拡大に取り組む。

<岡山米作付拡大面積>
 「にこまる」22ha(拡大)
 「つやきらり」60.2ha(拡大)
 「里海米」6ha(拡大)

需要に応じた麦類の生産振興

数値目標等
(3カ年)

【小麦粗タンパク含量目標値】 10%以上(確保)
 【「せときらら」作付面積】 25ha ⇒ 50ha(25ha増)

具体的方策

- ・粗タンパク含量の適性化に向けた実肥施用等の提案指導に取り組みます。
- ・需要に応じたパン用小麦「せときらら」の作付拡大による出荷量の確保に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 麦類の適地化に向けて圃場排水対策支援に取り組む。
- 赤カビ病等の適期防除による出荷品質向上を図り、計画出荷に繋げる。

令和7年度

- 講習会等(2回/年)を通じて実肥施用の声掛け運動の実施と施肥試験による粗タンパク含量向上に繋げる。
- 関係機関と連携し、需要に応じた「せときらら」の普及推進に取り組む。

令和8年度

- 講習会等(2回/年)を通じて実肥施用の声掛け運動の実施と前年の施肥試験を見直し、継続試験を実施する。
- 関係機関と連携し、需要に応じた「せときらら」の作付拡大に取り組む。(17ha)

令和9年度

- 講習会等(2回/年)を通じて実肥施用の声掛け運動の実施と前年の施肥試験を見直し、継続試験を実施する。
- 関係機関と連携し、需要に応じた「せときらら」の作付拡大に取り組む。(8ha)

重点実施事項③

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす(夏秋)・ブロッコリー	110a(拡大)
	【野菜振興品目】	
	はくさい・キャベツ・レタス類	60a(拡大)
	【既存産地品目】	
	冬瓜・かぼちゃ・いちご	50a(拡大)
	計	220a
	【果樹振興品目】	
	ぶどう ※ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	90a(拡大)

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体等への提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 環境モニタリング装置の導入を推進し、気象・気温・日照等のデータを病虫害防除や栽培管理に活かし、生産性の向上に繋げる。(いちご等:7件/0.8ha/3カ年)
- 生産部会・担い手経営体等への提案型作付推進により野菜産地の拡大に取り組む。
- 就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者ならびに農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導により、ぶどう産地の規模拡大を図る。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 3a(拡大) 「ブロッコリー」30a(新規)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 7a(拡大) 「ブロッコリー」30a(拡大)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 10a(拡大) 「ブロッコリー」30a(拡大)
<野菜振興品目> 「はくさい」 2a(拡大) 「キャベツ」 2a(拡大) 「レタス類」 2a(拡大)	<野菜振興品目> 「はくさい」 10a(拡大) 「キャベツ」 10a(拡大) 「レタス類」 3a(拡大)	<野菜振興品目> 「はくさい」 13a(拡大) 「キャベツ」 13a(拡大) 「レタス類」 5a(拡大)
<既存産地品目> 「冬瓜・かぼちゃ」 4a(拡大) 「いちご」 3a(拡大) 計 46a	<既存産地品目> 「冬瓜・かぼちゃ」 16a(拡大) 「いちご」 3a(拡大) 計 79a	<既存産地品目> 「冬瓜・かぼちゃ」 20a(拡大) 「いちご」 4a(拡大) 計 95a
<果樹振興品目> 「ぶどう」 30a(拡大)	<果樹振興品目> 「ぶどう」 30a(拡大)	<果樹振興品目> 「ぶどう」 30a(拡大)

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等
(3カ年)

【普及面積・取組件数(3年後)】	
「緑肥作物」	20ha(確保)
「天敵農薬」	20件(確保)
【肥料実証試験】	1銘柄/年

具体的方策

- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大を図ります。
- ・被覆コート肥料の流出対策として、代替肥料の現地実証に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 「みどりの食料システム戦略」に向けた「緑肥作物」の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和7年度

<取組面積>
「緑肥作物」 17ha
<取組件数>
「天敵農薬」 15件

令和8年度

<取組面積>
「緑肥作物」 18ha
<取組件数>
「天敵農薬」 17件

令和9年度

<取組面積>
「緑肥作物」 20ha
<取組件数>
「天敵農薬」 20件



【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 13億円の確保

米 麦 680百万円 野菜 50百万円 果実 570百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた
新たな販売流通の仕組みづくり数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里海米」	2,400俵(3年後)
「つやきらり」	9,600俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

<集荷目標>
「里海米」 2,200俵
「つやきらり」 220俵

令和8年度

<集荷目標>
「里海米」 2,300俵
「つやきらり」 2,160俵

令和9年度

<集荷目標>
「里海米」 2,400俵
「つやきらり」 9,600俵

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等
(3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】

490t・3.3億円

【内訳】

＜野菜＞ 280t[全出荷量の6割]・0.3億円

＜果樹＞ 210t[全出荷量の7割]・3.0億円

【重点市場との販売会議】

4品目・6市場/年

【農産物消費宣伝PR活動】

3回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 重点取引市場との結び付き強化に向けて、生産目標と販売計画について市場との情報共有を図るとともに、販売会議・市場視察等を通じて連携を深め、有利販売に繋げる。
- 全農、本所と連携し、重点取引市場等での販促PR活動による産地ブランドの認知度向上を図る。

令和7年度

○園芸主要産地における生産出荷販売の状況把握と課題解決に向けた情報整理を行う。

令和8年度

○園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

令和9年度

○園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【TACミーティング】	1回/月
【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	1名参加/年
【講習会・研修会参加】	20回/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員活動による農家ニーズの把握と情報提供による結び付きの強化を図る。
- TACミーティングを定期的に開催し、営農指導活動の情報共有を図る。
- 本所(営農部・経済部)との営農指導事業に係る連携強化を図り、TAC指導員活動の見える化に取り組む。
- OGH農場評価制度を活用し、営農アドバイザーとしての営農指導技術のスキルアップを図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。
- ・品目別栽培講習会において、営農振興計画実践状況の情報発信を行います。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。





営農センター別計画

瀬戸内営農センター

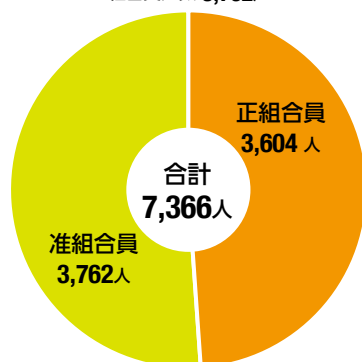
1 活動テーマ

持続可能な地域農業を目指して、意欲ある農業の実現！

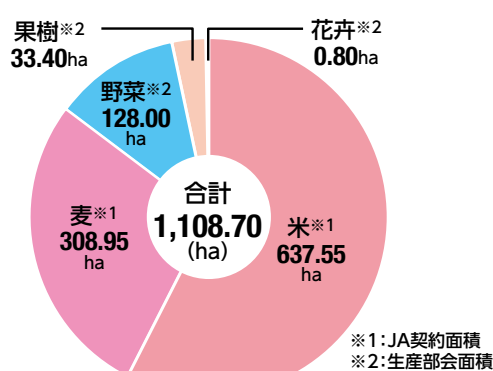
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

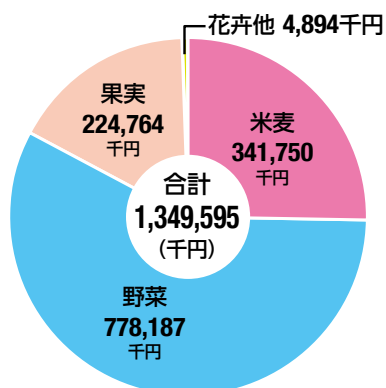
組合員戸数 5,762戸



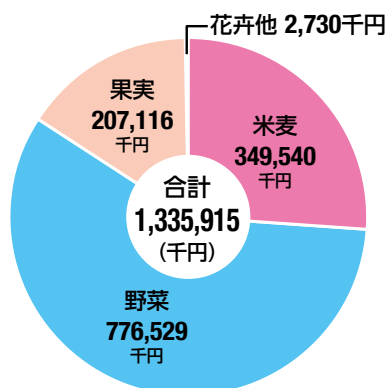
●R6 分類別栽培面積



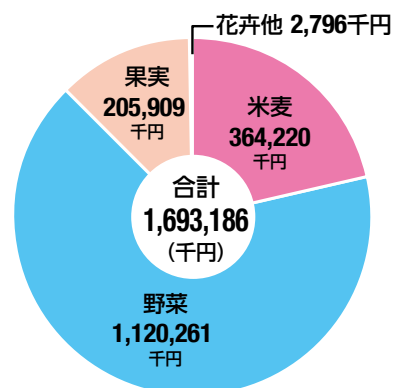
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



当管内は、瀬戸内市及び岡山市東部の一部を範囲とし、平野部の水田地帯と丘陵地や干拓地を中心とした園芸地帯に大別することができます。

地域別に米・麦・野菜・果樹・花卉の産地化が図られており、多様な農業が展開されています。

しかし、現状は就農人口の減少と農家の高齢化が進み、生産農家の年齢構造の変化が進む中で、栽培面積の減少、耕作放棄地などの問題もあり、持続可能な農業の実現するためには、トータルサポート事業を活用した新規就農者や定年帰農者の確保が必要不可欠となります。

生産振興に向けて、低コスト化生産を推進し、生産振興対策や流通の変化に対応した販売力を強化し、安全・安心な農産物の供給を行うことで、産地の更なる活性化を目指します。

1. 農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組みます。
- ・需要に応じた麦類の生産振興に取り組みます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組みます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組みます。

2. 販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。
- ・㊤青果物の集荷率向上とスケールメリットを生かした販売流通に取り組みます。

3. 営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組みます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組みます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】 30ha

【特色のあるJA岡山米作付面積】

「にこまる」 27ha ⇒ 30ha (3ha増)

「つやきらり」 60ha (新規拡大)

「里海米」 3ha ⇒ 6ha (3ha増)

具体的方策

- ・「ザルビオ」(栽培管理支援システム)を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米の推奨品種の普及拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取り組み拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度

- 「ザルビオ」の登録農家への分析結果の報告と効率的な運用に向けた情報共有を行う。
(10ha取組増)
- 「にこまる」ならびに高温耐性品種「つやきらり」について担い手経営体等への普及推進を図る。
(にこまる1ha・つやきらり3.5ha・新規拡大)
- JA買取による生産者契約栽培米(里海米アケボノ)への取組拡大とともに、農業法人、担い手経営体への作付推進により「里海米」の生産拡大を図る。
(1ha・拡大)

令和8年度

- 登録農家への分析結果の報告と効率的な運用に向けた情報共有を行う。
(10ha取組増)
- 「にこまる」ならびに高温耐性品種「つやきらり」の推進エリアを設定し、担い手経営体等への普及拡大に取り組む。
(にこまる1ha・つやきらり35ha・拡大)
- 「里海米アケボノ」の取組拡大に向けて、農業法人、担い手経営体への作付推進と部会への加入誘導により生産拡大を図る。
(1ha・拡大)

令和9年度

- 登録農家への分析結果の報告と効率的な運用に向けた情報共有を行う。
(10ha取組増)
- 「にこまる」ならびに高温耐性品種「つやきらり」の推進エリアを設定し、担い手経営体等への生産拡大に取り組む。
(にこまる1ha・つやきらり21.5ha・拡大)
- 「里海米アケボノ」の取組拡大に向けて、農業法人、担い手経営体への作付推進により部会への加入誘導生産拡大を図る。
(1ha・拡大)

需要に応じた麦類の生産振興

数値目標等
(3カ年)【ビール大麦合格率】
35% (1年目) ~ 45% (3年目)

具体的方策

- ・需要に応じたビール大麦の出荷量確保に努めます。

各年度の行動計画

令和7年度

- 赤カビ病等の適期防除による出荷品質向上を図り、計画出荷に繋げる。
- 排水対策による湿害軽減と適期防除によるビール大麦の出荷品質の向上を図る。(1年目35%)

令和8年度

- 赤カビ病等の適期防除による出荷品質向上を図り、計画出荷に繋げる。
- 排水対策による湿害軽減と適期防除によるビール大麦の出荷品質の向上を図る。(2年目40%)

令和9年度

- 赤カビ病等の適期防除による出荷品質向上を図り、計画出荷に繋げる。
- 排水対策による湿害軽減と適期防除によるビール大麦の出荷品質の向上を図る。(3年目45%)

重点実施事項 ③

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす(夏秋)・アスパラガス・ブロッコリー	115a(拡大)
	【野菜振興品目】	
	はくさい・キャベツ	170a(拡大)
	【既存産地品目】	
	冬瓜・ソーメン南瓜・すいか他	50a(拡大)
	計	335a
	【果樹振興品目】	
	ぶどう ※ビオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	50a(拡大)
	レモン	15a(拡大)
	【花卉振興品目】 ※ひまわり・小ぎく・ハボタン他	8a(拡大)

具体的方策

- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取り組み提案を行います。
- ・本所と関係機関等との連携により部会活動の活性化に取り組みます。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 園芸主要品目の栽培提案による生産拡大を図るとともに、高品質安定生産に向けた技術指導により生産性と品質向上を図り、農家所得向上に繋げる。
- 就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者ならびに農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導により、野菜産地の規模拡大を図る。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「アスパラガス」 3a(拡大) 「ブロッコリー」30a(新規) <野菜振興品目> 「はくさい」 30a(拡大) 「キャベツ」 20a(拡大) <既存産地品目> 「冬瓜・ソーメン南瓜・すいか他」 14a(拡大) 計 102a <果樹振興品目> 「ぶどう」 15a(拡大) 「レモン」 2a(拡大) <花卉振興品目> 2a(拡大)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「アスパラガス」 3a(拡大) 「ブロッコリー」30a(拡大) <野菜振興品目> 「はくさい」 30a(拡大) 「キャベツ」 20a(拡大) <既存産地品目> 「冬瓜・ソーメン南瓜・すいか他」 18a(拡大) 計 106a <果樹振興品目> 「ぶどう」 15a(拡大) 「レモン」 6a(拡大) <花卉振興品目> 3a(拡大)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「アスパラガス」 4a(拡大) 「ブロッコリー」30a(拡大) <野菜振興品目> 「はくさい」 50a(拡大) 「キャベツ」 20a(拡大) <既存産地品目> 「冬瓜・ソーメン南瓜・すいか他」 18a(拡大) 計 127a <果樹振興品目> 「ぶどう」 20a(拡大) 「レモン」 7a(拡大) <花卉振興品目> 3a(拡大)

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等
(3カ年)【普及拡大面積】
「里海米」 3ha(拡大)

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かきからアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

○瀬戸内かきからアグリ事業を活用し、農業法人、担い手経営体への作付推進により「里海米」の普及推進を図る。(1ha増/年)



【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 14.5億円の確保

米 麦 310百万円 野 菜 900百万円 果 実 237百万円
花卉他 3百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた
新たな販売流通の仕組みづくり数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里 海 米」 530俵(3年後)
「つやきらり」 7,200俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

<集荷目標>
「里 海 米」 300俵
「つやきらり」 420俵

令和8年度

<集荷目標>
「里 海 米」 300俵
「つやきらり」 4,200俵

令和9年度

<集荷目標>
「里 海 米」 530俵
「つやきらり」 7,200俵

④青果物の集荷率向上と スケールメリットを生かした販売流通

数値目標等 (3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】 4,270 t・5.5億円
 【内訳】 <野菜> 4,100t[全出荷量の9割]・4.3億円
 <果樹> 170t[全出荷量の7割]・1.2億円
 【販売担当者会議・市場視察研修】 8回/年
 【農産物消費宣伝PR活動】 2回/年

具体的方策

- ・品目別の販売対策会議に参加し、市場視察研修を実施し、的確な産地情報(生育・出荷)の提供と市場販売情勢の把握に取り組みます。
- ・出荷始めには目揃え会、査定会等を行い、出荷規格の遵守徹底を図ります。
- ・全農、本所と連携して、青果物の販売促進PR活動による④ブランドの認知度の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 市場販売会議による市場情勢の把握と出荷販売提案による重点取引市場との連携強化を図る。
- JA販売担当者会議により情報共有を図るとともに、市場販売会議と市場視察により市場情勢の把握と連携強化を図る。
- 全農、本所と連携し、重点取引市場等での販促PR活動による産地ブランドの認知度向上を図る。

令和7年度

○園芸主要産地における生産出荷販売の状況把握と課題解決に向けた情報整理を行う。

令和8年度

○園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

令和9年度

○園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【TACミーティング】	1回/月
【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員による訪問活動を通じて担い手経営体、大型農家のニーズの把握と提案型営農活動による連携強化を図り、「よりよい営農活動」の実践に繋げる。
- TACミーティングを定期的に行い、営農指導活動の情報共有とTACリーダー会議を通じて本所との連携強化を図る。
- TAC指導員活動による農家ニーズの把握と情報提供による結び付きの強化を図る。
- GH農場評価制度を活用し、営農アドバイザーとしての営農指導技術のスキルアップを図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】	1課題/名(3カ年)
【営農振興計画実践報告会】	4回(年間/四半期)
【品目別栽培講習会】	15回/年

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。
- ・品目別栽培講習会において、営農振興計画実践状況の情報発信を行います。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。
- 品目別栽培講習会等において、営農振興計画実践の進捗状況を報告し、情報発信を行う。





営農センター別計画

藤田営農センター

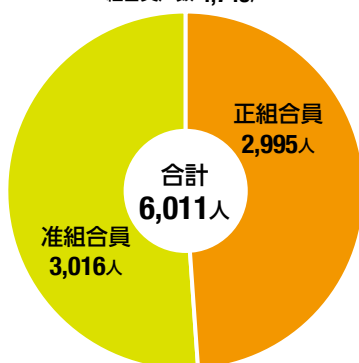
1 活動テーマ

持続可能な農業の実践へ

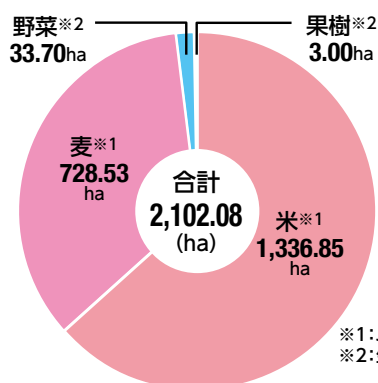
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

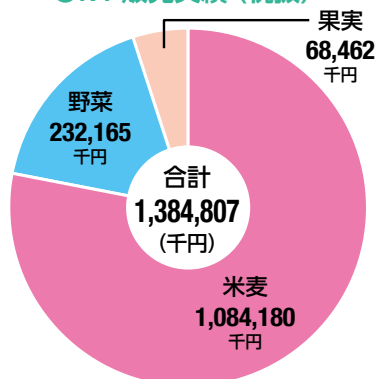
組合員戸数 4,745戸



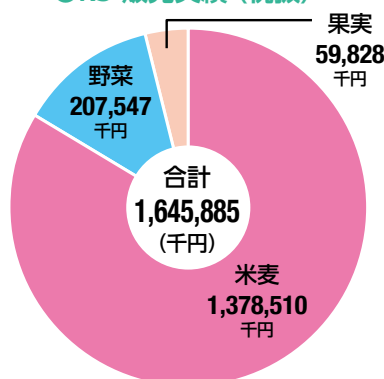
●R6 分類別栽培面積



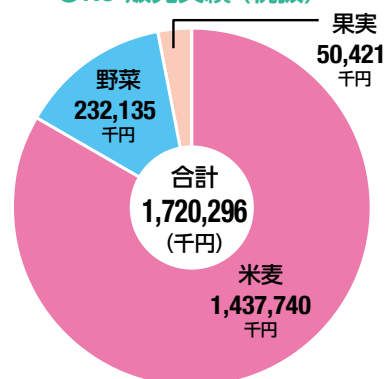
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



3

現状と課題

当管内は、岡山平野の南部に位置し、沖積平野および広大な干拓地を有する地域であり、古くから地形を活かした水稻が中心の産地です。生産者の高齢化により、生産者数、生産面積ともに減少傾向となっています。さらに、人口の減少や物価の高騰などにより、農産物の販売環境も厳しさが増しています。

生産者や関係機関との連携を図りながら、「持続可能な農業」の実践に向けて活動します。

4

基本方針別 目標と方策

1.農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組みます。
- ・需要に応じた麦類の生産振興に取り組みます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組みます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組みます。

2.販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。
- ・㊤青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組みます。

3.営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組みます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組みます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等 (3カ年)	【ザルビオ導入面積(新規)】 50ha 【特色のあるJA岡山米作付面積】 「にこまる」 140ha ⇒ 200ha(60ha増) 「つやきらり」 110ha(新規拡大)
----------------	---

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。
- ・高温耐性を備えた「にこまる」の推進による生産拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の地域栽培適正の把握に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 「ザルビオ」の効率的な運用に向けて、管内利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析と共有により効率的な運用と農産物の生産性向上を図る。
- 農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」「にこまる」の作付提案により生産拡大を図る。

令和7年度

- 「ザルビオ」の生育診断と情報分析により有効性の検証を行う。
- 「にこまる」「つやきらり」の生産拡大と収量性の向上を図り、農家所得の向上に繋げる。
- 「つやきらり」の南部エリアでの栽培適性の把握に取り組む。

令和8年度

- 「ザルビオ」の生育診断と情報分析により有効性の検証を行う。
- 「にこまる」「つやきらり」の生産拡大に取り組み、収量性の向上により農家所得の向上に繋げる。

令和9年度

- 検証結果に基づき、有効性の確認後、普及推進に取り組む。
- 「にこまる」「つやきらり」の生産拡大に取り組み、収量性の向上により農家所得の向上に繋げる。

令和7年度

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」10ha(拡大)
「つやきらり」1.6ha(新規)

令和8年度

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」20ha(拡大)
「つやきらり」1.6ha(新規)

令和9年度

<岡山米作付拡大面積>
「にこまる」30ha(拡大)
「つやきらり」92.4ha(拡大)

需要に応じた麦類の生産振興

数値目標等
(3カ年)

【二条大麦出荷量(確保)】 4,160t(規格外含む)

具体的方策

- ・需要に応じた二条大麦の出荷量確保に努めます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

○二条大麦の排水対策と赤カビ病等の適期防除による出荷品質の向上を図り、二条大麦の計画出荷に取り組む。



重点実施事項 ③

持続可能な地域農業の実現に向けた 園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす(夏秋)・ブロッコリー	105a(拡大)
	【野菜振興品目】	
	レタス・たまねぎ	120a(拡大)
	【既存産地品目】	
	かぼちゃ・小玉すいか(新規品目)	40a(拡大)
	計	265a

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。
- ・提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組提案を行います。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 環境モニタリング装置の導入を推進し、気象・気温・日照等のデータを病虫害防除や栽培管理に活かし、生産性の向上に繋げる。
- 産地での受入体制の整備と農地の確保、補助事業を活用した施設・機械導入等のサポート支援により、新規就農希望者の受入に取り組む。
- 市場等の需要に基づく品目(野菜類)提案と作付推進による新たな野菜産地の形成を図る。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(新規) <野菜振興品目> 「レタス」 10a(拡大) <新規品目> 「小玉すいか(ピノガール)」 13a(新規) 計 58a	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(拡大) <野菜振興品目> 「レタス」 10a(拡大) 「たまねぎ」 50a(拡大) <既存産地品目> 「かぼちゃ」 5a(拡大) <新規品目> 「小玉すいか(ピノガール)」 7a(拡大) 計 107a	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 5a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(拡大) <野菜振興品目> 「レタス」 15a(拡大) 「たまねぎ」 35a(拡大) <既存産地品目> 「かぼちゃ」 5a(拡大) <新規品目> 「小玉すいか(ピノガール)」 10a(拡大) 計 100a

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等
(3カ年)

【普及拡大面積】

「里海米」 22ha増(拡大)

「緑肥作物」 15ha(確保)

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かきがらアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。
- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」の普及拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

○瀬戸内かきがらアグリ事業を活用した「里海米」等の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。

○「みどりの食料システム戦略」に向けた「緑肥作物」の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。

令和7年度

<普及拡大面積>
「里海米」 7ha(拡大)
<取組面積>
「緑肥作物」 5ha

令和8年度

<普及拡大面積>
「里海米」 7ha(拡大)
<取組面積>
「緑肥作物」 10ha

令和9年度

<普及拡大面積>
「里海米」 8ha(拡大)
<取組面積>
「緑肥作物」 15ha

【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 15.5億円の確保

米 麦 1,280百万円 野菜 210百万円 果実 60百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり

数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里海米」 10,000俵(3年後)
「つやきらり」 13,200俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

<集荷目標>
「里海米」 8,300俵
「つやきらり」 200俵

令和8年度

<集荷目標>
「里海米」 8,800俵
「つやきらり」 1,900俵

令和9年度

<集荷目標>
「里海米」 10,000俵
「つやきらり」 13,200俵

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等
(3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】

620t・1.8億円

〔内訳〕

＜野菜＞ 600t〔全出荷量の8割〕・1.5億円

＜果実＞ 20t〔全出荷量の10割〕・0.3億円

【販売対策会議】

10回/年

【販売情報交換会】

2回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・㊦青果物の集荷率向上に向けて、出荷者ニーズの把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・園芸販売担当者の育成による市場情勢に応じた販売力の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 重点取引市場との結び付き強化に向けて園芸販売担当者により産地・市場情勢の収集と情報共有を図る。
- 生産出荷販売に係る園芸産地のニーズの把握と課題解決に向けて産地との連携強化を図る。
- 市場販売会議による市場情勢の把握と連携強化により、担当者の販売力の向上とともに産地品目の有利販売に繋げる。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等 (3カ年)	【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
	【TACミーティング】	24回以上/年
	【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
	【営農指導基礎研修会】	1名参加/年
	【TAC指導員による若手職員研修】	4回/年
	【各種講習会への参加】	20回/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。
- ・新任TAC指導員の確保・育成を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員による訪問活動を通じた担い手経営体等のニーズの把握と提案型営農活動により結び付きの強化を図る。
- TACミーティングを定期的を開催し、営農指導活動の情報共有を図る。
- 本所(営農部・経済部)と営農センターとの営農指導事業に係る連携強化と、TAC指導員活動の見える化と情報共有により「よりよい営農活動」の実践に取り組む。
- GH農場評価制度を活用し、営農指導技術のスキルアップを図る。
- 本所(指導課)との連携による新任TAC指導員の実務レベルでの栽培指導技術の向上を図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。





営農センター別計画

備南営農センター

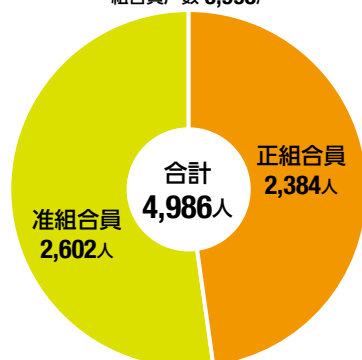
1 活動テーマ

農業の便利屋になる
～地域農業の発展に貢献する万能薬～

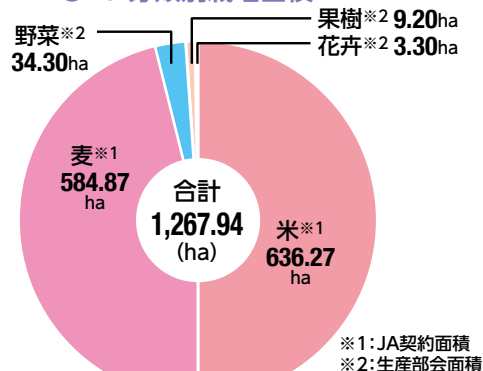
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

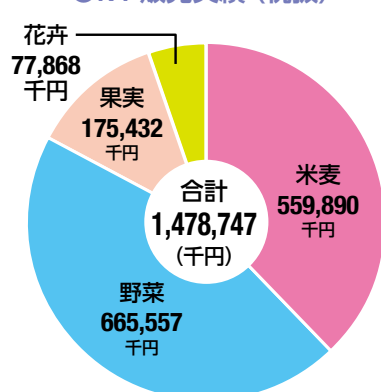
組合員戸数 3,998戸



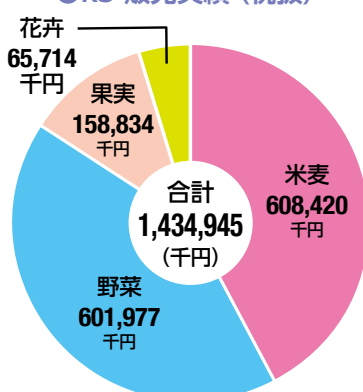
●R6 分類別栽培面積



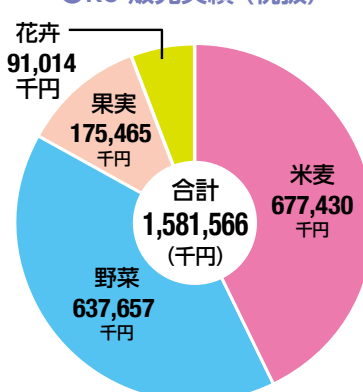
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



当管内は、岡山県の最南部に位置し、干拓による水田地帯が農業の中心となり、それに連なる丘陵地帯や都市近郊にも農村地帯が存在している地域となります。米麦、大豆、野菜、果樹、花卉と地域別に産地が形成されており、多様な農業が展開されています。特になす、レンコン、ぶどう、スイートピーなど地域を代表する産地形成がなされており、全国に向けた地域特産ブランドとしてPRも行っています。

近年では生産費の高騰が大きく影響し、離農する農家が多くみられ大規模経営体への農地流動化が進んでいます。そのため、大規模経営体との繋がり（生産・販売・経理・人員確保・後継者の育成など）をこれまで以上に強化し、農業経営に必要なJAにならなければなりません。また、新規就農者や定年帰農者等の担い手の受け皿づくりと人材確保に努め、農業所得の増大、農業生産の拡大に向けて提案型の生産振興、販売力の強化、ブランド力の向上、地域農業の活性化に取り組む必要があります。

1. 農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組めます。
- ・需要に応じた麦類の生産振興に取り組めます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組めます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組めます。

2. 販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組めます。
- ・㊦青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組めます。

3. 営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組めます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組めます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】 30ha

【特色のあるJA岡山米作付面積】

「にこまる」 50ha ⇒ 100ha (50ha増)

「つやきらり」 80ha (新規拡大)

「里海米」 6ha (新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米の推奨品種の普及拡大に取り組みます。
- ・高温耐性を備えた「にこまる」の推進エリア設定による生産拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。
- ・JA岡山米「にこまる」「つやきらり」への品種転換に伴う、ライスセンター施設等の受入体制の整備に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への普及推進とアカウント連携による情報分析を通じてTAC指導員活動で活用し、農産物の生産性向上に繋げる。
- JA岡山米の高温耐性推奨品種として、「にこまる」「つやきらり」を設定し、実需に応じた生産拡大を図り、収量性・出荷品質の向上により農家所得向上を図る。
- JA買取による生産者契約栽培米(里海米アケボノ)への取組拡大とともに、農業法人、担い手経営体等への作付推進により生産拡大を図る。
- JA岡山米の出荷品質向上に向けて、「ヒノヒカリ」から「にこまる」「つやきらり」への品種転換を進め、ライスセンター等の荷受施設の受入体制の整備を行い、生産から出荷までの作業の効率化を図る。

重点实施事项 ②

数值目標等
(3力年)

【粗タンパク含量目標値】

10%以上(確保)

【ビール大麦出荷量】

500t(3年後)

- ・麦作に適地化に向けた排水対策指導の徹底に取り組みます。
- ・需要に応じたビール大麦の出荷量確保に努めます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

79

重点実施事項 ③

持続可能な地域農業の実現に向けた
園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす(夏秋)・アスパラガス・ブロッコリー	120a(拡大)
	【既存産地品目】	
	れんこん・にんにく・かぼちゃ・スイカ他	365a(拡大)
	計	485a
	【果樹振興品目】	
	ぶどう ※ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	50a(拡大)
	レモン	15a(拡大)
	【花卉振興品目】 ※トルコギキョウ・ケイトウ他	10a(拡大)

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・青果物の高品質安定出荷に向けた栽培技術の普及推進に取り組みます。
- ・園芸重点振興品目の設定と農業法人、集落営農組織への提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取り組み提案を行います。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 園芸主要品目の栽培提案による生産拡大を図るとともに、高品質安定生産に向けた技術指導により生産性と品質向上を図り、農家所得向上に繋げる。
- 新規栽培者の確保と直売所・市場等への出荷と部会への加入誘導を行い、担い手確保による産地の活性化に取り組む。
- 果樹主要品目の作業防除暦・施肥例の作成と高品質安定生産に向けた栽培提案を行い、生産性・出荷品質の向上に取り組み農家所得の向上を図る。
- 生産者ニーズに基づき営農振興支援事業による農家支援を行い、農家の経営サポートに取り組む。

各年度の行動計画

令和7年度

- 環境モニタリング装置の施設なすにおけるデータ分析と収量性と品質向上に向けた有効性の検証を行う。
- 園芸主要産地へのアンケート実施による生産出荷に対する現状把握と産地の活性化に向けた取組提案を行い、生産出荷量の確保により有利販売に努める。

<野菜重点振興品目>

「なす(夏秋)」 1a(拡大)
「アスパラガス」 1a(拡大)
「ブロッコリー」 25a(新規)

<既存産地品目>

「れんこん」 20a(拡大)
「ニンニク」 20a(拡大)
「かぼちゃ」 5a(拡大)
「小玉すいか(ピノガール)」 20a(拡大)
「豆類他」 4a(拡大)
計 96a

<果樹振興品目>

「ぶどう」 10a(拡大)
「レモン」 3a(拡大)

<花卉振興品目> 2a(拡大)

令和8年度

- 環境モニタリング装置の有効性の検証結果をもとに推進品目の設定と生産農家への普及推進を図り、生産性の向上に取り組む。
- 園芸主要産地へのアンケート結果に基づき産地活性化に向けた取組提案を行い、生産出荷量の確保により有利販売に努める。

<野菜重点振興品目>

「なす(夏秋)」 5a(拡大)
「アスパラガス」 2a(拡大)
「ブロッコリー」 35a(拡大)

<既存産地品目>

「れんこん」 30a(拡大)
「ニンニク」 30a(拡大)
「かぼちゃ」 20a(拡大)
「小玉すいか(ピノガール)」 30a(拡大)
「豆類他」 4a(拡大)
計 156a

<果樹振興品目>

「ぶどう」 20a(拡大)
「レモン」 5a(拡大)

<花卉振興品目> 4a(拡大)

令和9年度

- 環境モニタリング装置の普及拡大による施設園芸品目の生産性の向上と出荷量の確保を図り、有利販売に取り組む。
- 園芸主要産地へのアンケート結果に基づき産地活性化に向けた取組提案を行い、生産出荷量の確保により有利販売に努める。

<野菜重点振興品目>

「なす(夏秋)」 9a(拡大)
「アスパラガス」 2a(拡大)
「ブロッコリー」 40a(拡大)

<既存産地品目>

「れんこん」 50a(拡大)
「ニンニク」 50a(拡大)
「かぼちゃ」 25a(拡大)
「小玉すいか(ピノガール)」 50a(拡大)
「豆類他」 7a(拡大)
計 233a

<果樹振興品目>

「ぶどう」 20a(拡大)
「レモン」 7a(拡大)

<花卉振興品目> 4a(拡大)



重点実施事項 ④

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等 (3カ年)	【普及拡大面積・取組件数】 「里海米」 6ha(新規) 「緑肥作物」 1ha(拡大) 「天敵農薬」 40件(確保) 【肥料実証試験】 1銘柄/年
----------------	--

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かきからアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。
- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大を図ります。
- ・被覆コート肥料の流出対策として、代替肥料の現地実証に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 瀬戸内かきからアグリ事業を活用した「里海米」等の普及推進により環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 「みどりの食料システム戦略」に向けた「緑肥作物」と「天敵農薬」の普及推進により、環境負荷低減に向けた農業生産に取り組む。
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<普及面積・取組件数> 「天敵農薬」 40件	<普及面積・取組件数> 「里海米」 3ha(新規) 「緑肥作物」0.5ha(拡大) 「天敵農薬」 40件	<普及面積・取組件数> 「里海米」 3ha(拡大) 「緑肥作物」0.5ha(拡大) 「天敵農薬」 40件

【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 14億円の確保

米 麦 610百万円 野菜 520百万円 果実 197百万円
 花卉他 73百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた新たな
販売流通の仕組みづくり数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里海米」 400俵(3年後)
 「つやきらり」 9,600俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

<集荷目標>

「つやきらり」 180俵

令和8年度

<集荷目標>

「里海米」 200俵
 「つやきらり」 1,800俵

令和9年度

<集荷目標>

「里海米」 400俵
 「つやきらり」 9,600俵

重点実施事項 ②

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等 (3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】 1,150 t・5.3億円
 【内訳】 <野菜> 1,100t【全出荷量の8割】・4.5億円
 <果実> 50t【全出荷量の7割】・0.8億円
 【販売担当者会議・市場視察研修】 10回/年
 【農産物消費宣伝PR活動】 2回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・㊦青果物の集荷率向上に向けた出荷者ニーズの把握と課題解決に向けた取組提案を行います。
- ・園芸販売担当者の育成と市場情勢に応じた販売スキルの向上を図ります。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

○産地(部会)別の生産計画の取りまとめと安定取引と有利販売に向けた販売計画の策定と全農・本所(園芸課)・産地間の情報共有に努める。
 ○重点取引市場との結び付き強化に向けた産地情報(生産・出荷)の発信と共有を図る。
 ○JA販売担当者会議による販売情勢に伴う有利販売に向けたJA内での情報共有を図る。
 ○市場販売会議による市場情勢の把握と出荷販売提案による重点取引市場との連携強化を図る。
 ○重点取引市場での実需者への販促PR活動による㊦産地ブランドの認知度向上により有利販売に取り組む。

令和7年度

○園芸主要産地の現状把握に向けたアンケートの実施と情報収集に取り組む。

令和8年度

○園芸主要産地の生産出荷販売に係るニーズの把握と課題解決に向けた産地との連携強化を図る。

令和9年度

○園芸主要産地の生産出荷販売に係るニーズの把握と課題解決に向けた産地との連携強化を図る。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【法人化支援】	1経営体/年
【TACミーティング】	1回/月
【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・担い手経営体の経営基盤強化に向けての法人化支援に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。
- ・新任TAC指導員の確保・育成を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 本所(営農部・経済部)と営農センターとの営農指導事業に係る連携強化と情報共有により「よりよい営農活動」の実践に取り組む。
- GH農場評価制度を活用し、営農指導技術のスキルアップを図る。
- 本所(指導課)との連携による新任TAC指導員の実務レベルでの栽培指導技術の向上を図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。

重点実施事項 ②

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。
- ・品目別栽培講習会において、営農振興計画実践状況の情報発信を行います。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 地域農業の把握とともに営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。





営農センター別計画

高松営農センター

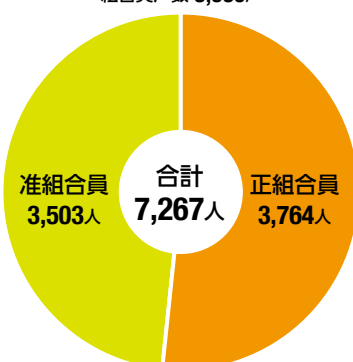
1 活動テーマ

ブランド力を強化し魅力ある農業の発進

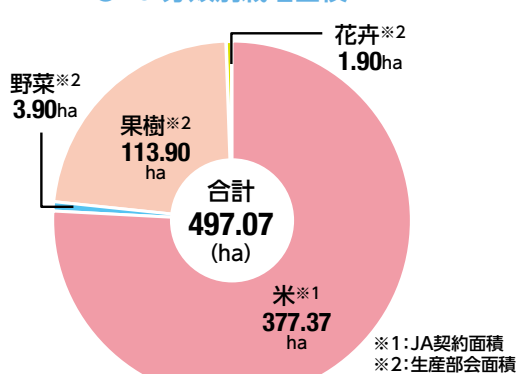
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

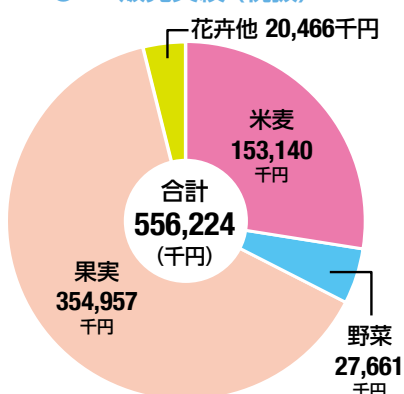
組合員戸数 5,930戸



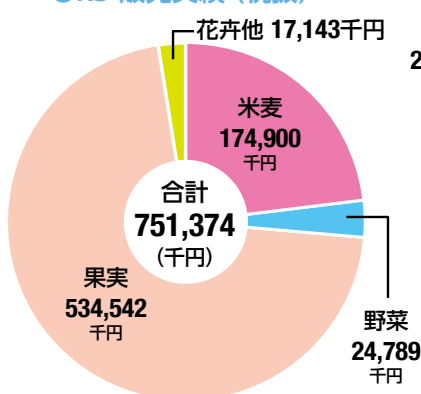
●R6 分類別栽培面積



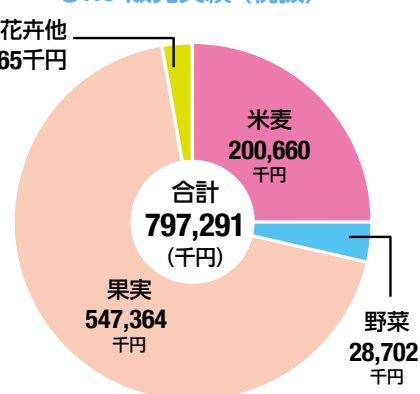
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



3

現状と課題

当管内は、北部の丘陵地を活かした果樹栽培を中心とした園芸作物と、南部の平坦地での稲作など多様な作物が栽培されています。中でももも・温室ぶどうは栽培歴130年を超える産地であり、岡山県の代表的な農産物として全国的に知られています。その他に有機無農薬野菜、ハウスメロン、夏秋なす、いちご、シイタケ、花卉などの栽培も行われています。

しかし、農業者の高齢化や担い手の不足、耕作放棄地の増加、市街化により、主要農産物の生産量の減少などの問題は避けられない状況です。

そのため、関係機関等と連携し、就農希望者の受入・担い手経営体への農地集積・園地の流動化に取り組む必要があります。

4

基本方針別 目標と方策

1.農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組みます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組みます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組みます。

2.販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり
- ・㊦青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組みます。

3.営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組みます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組みます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】	30ha
【特色のあるJA岡山米作付面積】	
「きぬむすめ」	20ha ⇒ 25ha (5ha増)
「にこまる」	40ha ⇒ 50ha (10ha増)
「つやきらり」	50ha (新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」や高温耐性を備えた「にこまる」の推進エリア設定による生産拡大に取り組みます。
- ・高温耐性品種「つやきらり」の普及拡大と多収特性を活かした生産性向上に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度

- 「ザルビオ」の普及推進と効率的な運用に向けて、利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析の共有化に取り組む。
 - 食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」や高温耐性を備えた「にこまる」、JA岡山の高温耐性推奨品種「つやきらり」の普及推進に取り組む。
- | | |
|---------|---------|
| 「きぬむすめ」 | 1ha(拡大) |
| 「にこまる」 | 1ha(拡大) |
| 「つやきらり」 | 1ha(新規) |

令和8年度

- 「ザルビオ」普及推進と生育診断ならびに情報分析により有効性の検証を図る。10ha(拡大)
 - 食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」や高温耐性を備えた「にこまる」、JA岡山の高温耐性推奨品種「つやきらり」の生産拡大を図る。
- | | |
|---------|----------|
| 「きぬむすめ」 | 2ha(拡大) |
| 「にこまる」 | 4ha(拡大) |
| 「つやきらり」 | 10ha(拡大) |

令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への普及推進と水稻以外の品目でのシステム運用を図る。20ha(拡大)
 - 食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」や高温耐性を備えた「にこまる」、JA岡山の高温耐性推奨品種「つやきらり」の生産拡大を図る。
- | | |
|---------|----------|
| 「きぬむすめ」 | 2ha(拡大) |
| 「にこまる」 | 5ha(拡大) |
| 「つやきらり」 | 39ha(拡大) |

重点実施事項 ②

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)	【野菜重点振興品目】	
	なす(夏秋)・ブロッコリー	140a(拡大)
	【既存産地品目】	
	有機野菜	60a(拡大)
	計	200a
	【果樹振興品目】	
	もも ※白鳳・清水白桃・おかやま夢白桃・白皇®・冬桃がたり	50a(拡大)
	ぶどう ※シャインマスカット・紫苑	20a(拡大)
	【花卉振興品目】 ※ケイトウ・ハボタン他	6a(拡大)

具体的方策

- ・「環境モニタリング装置」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大取り組みます。
- ・㊟青果物の高品質安定出荷に向けた栽培技術の普及推進に取り組みます。
- ・園芸重点振興品目の設定と作付推進による既存の野菜産地の形成に取り組みます。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度

- 気象観測装置を導入し、気象・気温・日照等のデータを取得し、病虫害防除や栽培管理に活かし、有効性の検証を行う。(もも:1圃場)
- 野菜産地の活性化に向けて新たな野菜産地の形成に取り組む。
- ももについて岡山白桃の有望品種への転換と新規就農者確保による面積拡大を図り、生産性の向上に取り組む。
- 部会連携による現地見学会での新規栽培者の確保と補助事業を活用した施設の導入支援に取り組む。(1名確保)

【野菜重点振興品目】	
「なす(夏秋)」	3a(拡大)
「ブロッコリー」	30a(新規)
【既存産地品目】	
「有機野菜」	10a(拡大)
計	43a
【果樹振興品目】	
「もも」	10a(拡大)
「ぶどう」	4a(拡大)
【花卉振興品目】	2a(拡大)

令和8年度

- 気象観測装置を活用し、気象・気温・日照等のデータを取得し、病虫害防除や栽培管理に活かし、有効性の検証結果をもとに産地における生産性の向上に繋げる。(もも:1圃場)
- 野菜産地の活性化に向けて新たな野菜産地の形成に取り組む。
- ももについて岡山白桃の有望品種への転換と新規就農者確保による面積拡大を図り、生産性の向上に取り組む。
- 部会連携による現地見学会での新規栽培者の確保と補助事業を活用した施設の導入支援に取り組む。(1名確保)

【野菜重点振興品目】	
「なす(夏秋)」	20a(拡大)
「ブロッコリー」	30a(拡大)
【既存産地品目】	
「有機野菜」	22a(拡大)
計	72a
【果樹振興品目】	
「もも」	20a(拡大)
「ぶどう」	8a(拡大)
【花卉振興品目】	2a(拡大)

令和9年度

- 気象観測装置を活用し、気象・気温・日照等のデータを取得し、病虫害防除や栽培管理に活かし、有効性の検証結果を示し、産地における生産性の向上に繋げる。(もも産地全体)
- 野菜産地の活性化に向けて新たな野菜産地の形成に取り組む。
- ももについて岡山白桃の有望品種への転換と新規就農者確保による面積拡大を図り、生産性の向上に取り組む。
- 部会連携による現地見学会での新規栽培者の確保と補助事業を活用した施設の導入支援に取り組む。(1名確保)

【野菜重点振興品目】	
「なす(夏秋)」	27a(拡大)
「ブロッコリー」	30a(拡大)
【既存産地品目】	
「有機野菜」	28a(拡大)
計	85a
【果樹振興品目】	
「もも」	20a(拡大)
「ぶどう」	8a(拡大)
【花卉振興品目】	2a(拡大)

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等
(3カ年)

【普及拡大面積・取組件数】

「緑肥作物」 2ha(新規)

「天敵農薬」 3件(新規)

具体的方策

- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

○環境負荷低減に向けた農業生産への取り組みと営農振興支援事業支援策により「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大に取り組む。

令和7年度

「緑肥作物」 0.3ha(新規)
「天敵農薬」 1件(新規)

令和8年度

「緑肥作物」 0.7ha(新規)
「天敵農薬」 1件(新規)

令和9年度

「緑肥作物」 1ha(新規)
「天敵農薬」 1件(新規)



【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 8億円の確保

米 麦 180百万円 野 菜 22百万円 果 実 574百万円
花卉他 24百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた新たな
販売流通の仕組みづくり数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里 海 米」 530俵 (3年後)
「つやきらり」 6,000俵 (3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。
- 「つやきらり」の作付拡大に伴う実需者との連携強化と販路開拓により有利販売に取り組む。

令和7年度

集荷目標
「里 海 米」 530俵
「つやきらり」 120俵

令和8年度

集荷目標
「里 海 米」 530俵
「つやきらり」 1,200俵

令和9年度

集荷目標
「里 海 米」 530俵
「つやきらり」 6,000俵

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等
(3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】 350t・4.1億円
 【内訳】 <野菜> 40t【全出荷量の10割】・0.1億円
 <果実> 310t【全出荷量の9割】・4.0億円
 【販売担当者会議・市場視察研修】 3回/年
 【農産物消費宣伝PR活動】 5回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 重点取引市場との結び付き強化に向けた産地・市場情勢の収集と情報の共有を図り、有利販売に繋げる。(もも・ぶどう・野菜・花卉類)
- 園芸販売担当者会議を通じて販売情勢等の情報共有により担当者のレベルアップを図るとともに、重点取引市場との販売会議・市場視察により販売情勢と産地情報の共有を図り、有利販売に繋げる。
- 販売促進PR活動による産地ブランドの認知度向上に取り組む。(もも・ぶどう・野菜・花卉類等)

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等 (3カ年)	【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
	【法人化支援】	3経営体
	【TACミーティング】	1回/月
	【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
	【営農指導基礎研修会】	1名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。
- ・「栽培指導」と「営農相談」の営農アドバイザーとしての専門性を有するTAC指導員の育成に取り組みます。
- ・新任TAC指導員の確保・育成を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員の訪問活動による農家ニーズの把握と情報提供による結び付きの強化を図り、「よりよい営農活動」の実践に取り組む。
- TACミーティングを開催し、営農センター内での営農活動情報の共有化を図る。
- 営農指導体制の強化を図るため、営農センター、本所との情報共有を図る。
- 外部研修制度を活用し、TAC指導員の営農アドバイザーとしての営農指導技術の向上を図る。
- 営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得に向けた体制づくりに取り組む。



重点実施事項 ②

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。





営農センター別計画

建部営農センター

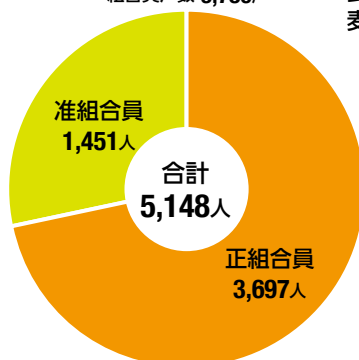
1 活動テーマ

里山農業で特色ある産地づくりを目指して

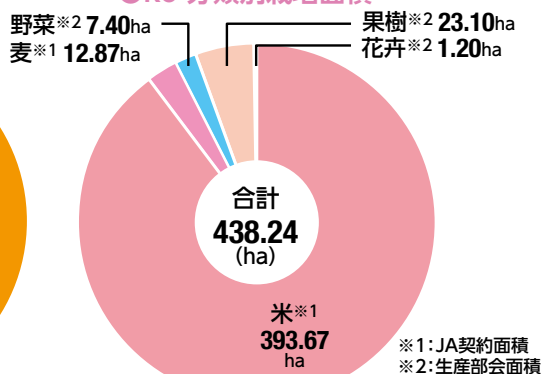
2 センター管内の概況

●R6 組合員数

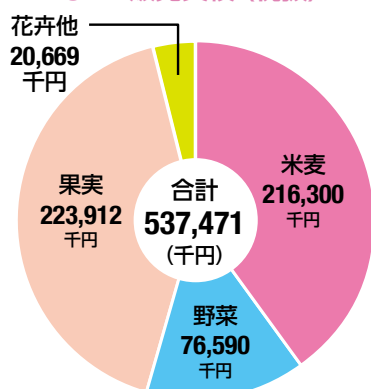
組合員戸数 3,786戸



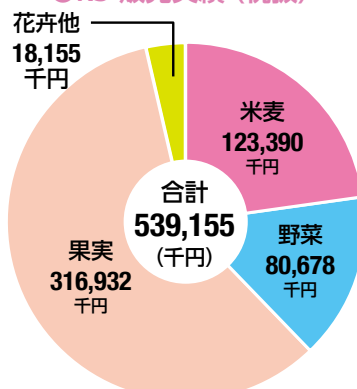
●R6 分類別栽培面積



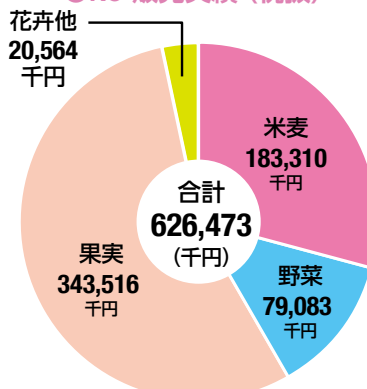
●R4 販売実績 (税抜)



●R5 販売実績 (税抜)



●R6 販売実績 (税抜)



当管内は、岡山市の北部エリアと吉備中央町加茂川地区を含む中山間地域に位置しており、吉備高原に位置する加茂川地区ではハイブリッドメガ団地でのぶどう栽培、盆地に位置する旭川沿いの建部・御津地区では、酒造好適米の「雄町」など、地域の地形、気候にあった特色ある農業品目の産地が広がっています。

近年、農業者の高齢化が進む中、後継者不足、耕作放棄地の増加により主要農産物の生産面積・生産量の減少などの問題が避けられない状況であり、関係機関と連携した新規就農者や定年帰農者の受け入れ体制の整備と人材確保が急務となっております。今後、農業所得の増大、農業生産の拡大に向けて、担い手農家への提案型生産振興と販売力の強化、ブランド力の向上、農地集積に取り組む必要があります。

1. 農畜産物の生産振興

- ・特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大に取り組めます。
- ・持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化に取り組めます。
- ・地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産に取り組めます。

2. 販売力の強化と販売体制づくり

- ・米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくりに取り組めます。
- ・青果物の集荷率向上とスケールメリットを活かした販売流通に取り組めます。

3. 営農指導体制の充実

- ・営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践に取り組めます。
- ・営農振興計画実践状況の見える化に取り組めます。



【農畜産物の生産振興】

重点実施事項 ①

特色のあるJA岡山米への品種転換と生産拡大

数値目標等
(3カ年)

【ザルビオ導入面積(新規)】 24ha
【特色のあるJA岡山米作付面積】
「にこまる」「きぬむすめ」 56ha ⇒ 76ha (20ha増)
「つやきりり」 10ha (新規拡大) ※御津、建部地区
「里海米」 2ha (新規拡大)

具体的方策

- ・「ザルビオ(栽培管理支援システム)」を活用したJA岡山版スマート農業の普及拡大に取り組みます。
- ・実需者ニーズに応じたJA岡山米の推奨品種の普及拡大に取り組みます。
- ・食味ランキング『特A』取得の「きぬむすめ」、高温耐性を備えた「にこまる」「つやきりり」の普及推進エリアを設定し生産拡大に取り組みます。
- ・農業法人、担い手経営体との連携による「里海米」の取組拡大を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度

- 「ザルビオ」の診断分析項目の設定とアカウント連携による情報分析に基づき、効率的運用と利用マニュアルの作成、勉強会を実施する。
- 「にこまる」「きぬむすめ」「つやきりり」の高温耐性品種普及推進エリアとして御津・建部地区を設定し、地域での研修会、講習会を通じて周知を行い、普及拡大を図る。5ha(新規拡大)
- 「里海米」への取り組みに向けた説明会、研修会を開催し新規生産者を募り、部会設立に向けての組織づくりを行う。
- ライスセンター利用者へ向けて高温耐性品種「にこまる」への品種転換をすすめる。

令和8年度

- 農業法人、担い手経営体等へ向けて利用推進を行い、アカウント連携による分析結果を通じて情報の共有を図り、効果的なTAC指導員活動と農産物の生産性向上に繋げる。10ha(新規)
- 普及推進エリアにおいて、生産拡大を図るとともに、講習会等を通じて栽培技術の向上を図る。12ha(拡大)
- 「里海米」の生産部会を設立し面積拡大、新規栽培者獲得に向け担い手への提案推進を行う。
- 直接販売契約により有利販売に繋げる事でJA集荷率の向上を図る。(1ha)
- ライスセンター荷受品種「あきたこまち」「ヒノヒカリ」からの品種転換をすすめ、受入品種の集約と効率的な施設稼働に向けた体制整備を行う。

令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等へ向けて利用推進を行い、アカウント連携による分析結果を通じて情報の共有を図り、効果的なTAC指導員活動と農産物の生産性向上に繋げる。14ha(拡大)
- 育苗施設での高温耐性品種の苗の供給を行い、栽培面積の拡大に繋げる。13ha(拡大)
- 「里海米」の面積拡大を図るとともに研修会、講習会を通じて品質と栽培技術の向上を図る。(1ha)
- 「あきたこまち」「ヒノヒカリ」からの品種転換をすすめ、ライスセンターの受入品種の集約を図る。

重点実施事項②

持続可能な地域農業の実現に向けた園芸産地の活性化

数値目標等 (3カ年)

【野菜重点振興品目】	
なす(夏秋)・ブロッコリー	100a(拡大)
【野菜振興品目】	
キャベツ・たまねぎ	45a(拡大)
【既存産地品目】	
ピーマン・きゅうり・かぼちゃ	110a(拡大)
計	255a
【果樹振興品目】	
ぶどう ※ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑	40a(拡大)
【花卉振興品目】 ※りんどう・ハボタン他	6a(拡大)

具体的方策

- ・園芸重点振興品目の設定と農業法人、集落営農組織への提案型作付推進による新たな野菜産地の形成に取り組みます。
- ・就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者および農業塾による新規栽培者の確保と部会への加入誘導を図ります。
- ・園芸主要産地の生産出荷における現状把握と課題解決に向けた取組提案を行います。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 野菜重点振興品目、野菜振興品目、既存産地品目の面積拡大を図る。
- 果樹・花卉振興品目の面積拡大を図る。
- 関係機関と生産部会との連携による講習会、園場巡回を実施する。(各生産部会6回/年)
- 新規就農希望者向けの相談会、現地見学会を実施し、新規就農者を確保する。

令和7年度	令和8年度	令和9年度
<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 3a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(新規) <野菜振興品目> 「キャベツ」 10a(拡大) <既存産地品目> 「ピーマン」 3a(拡大) 「きゅうり」 3a(拡大) 「かぼちゃ」 30a(拡大) 計 79a <果樹振興品目> 「ぶどう」 20a(拡大)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 3a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(拡大) <野菜振興品目> 「キャベツ」 10a(拡大) 「たまねぎ」 5a(拡大) <既存産地品目> 「ピーマン」 3a(拡大) 「きゅうり」 3a(拡大) 「かぼちゃ」 30a(拡大) 計 84a <果樹振興品目> 「ぶどう」 10a(拡大) <花卉振興品目> 3a(拡大)	<野菜重点振興品目> 「なす(夏秋)」 4a(拡大) 「ブロッコリー」 30a(拡大) <野菜振興品目> 「キャベツ」 10a(拡大) 「たまねぎ」 10a(拡大) <既存産地品目> 「ピーマン」 4a(拡大) 「きゅうり」 4a(拡大) 「かぼちゃ」 30a(拡大) 計 92a <果樹振興品目> 「ぶどう」 10a(拡大) <花卉振興品目> 3a(拡大)

重点実施事項 ③

地球にやさしい環境負荷低減に向けた農業生産

数値目標等 (3カ年)

【普及拡大面積・取組件数】

「里海米」 2ha(新規)

「緑肥作物」 3ha(拡大)

「天敵農薬」 6件(新規)

【肥料実証試験】

1銘柄/年

具体的方策

- ・環境循環型農業の取り組みに向けて、瀬戸内かきがらアグリ事業の「里海米」等の普及拡大を図ります。
- ・国の「みどりの食料システム戦略」に向けて、「緑肥作物」「天敵農薬」の普及拡大を図ります。
- ・被覆コート肥料の流出対策として、代替肥料の現地実証に取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度

- 環境負荷低減に向けた農業生産への取り組みに向けて、説明会を開催し、環境循環型農業としての「里海米」への理解と「緑肥作物」「天敵農薬」への取組に対する理解を求め、新規生産者の募集により取組拡大に繋げる。
「緑肥作物」1ha増
「天敵農薬」2件増
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和8年度

- 「里海米」生産部会を設立し、かきがら資材の提案と営農支援事業を活用した面積拡大、新規栽培者の獲得に向けて作付推進を行う。1ha(新規)
- 「緑肥作物」「天敵農薬」の普及推進を図り、取組拡大に繋げる。
「緑肥作物」1ha増
「天敵農薬」2件増
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

令和9年度

- 「里海米」の新規栽培者の募集と生産部会への加入を誘導し、生産拡大に繋げ、作付推進を行う。1ha(拡大)
- 「緑肥作物」「天敵農薬」の普及推進を図り、取組拡大に繋げる。
「緑肥作物」1ha増
「天敵農薬」2件増
- 水田における被覆コート肥料のプラスチック殻の流出対策として、肥料メーカーと連携し、代替肥料の現地実証に取り組む。

【販売力の強化と販売体制づくり】

農畜産物販売高 5.8億円の確保

米 麦 166百万円 野菜 68百万円 果実 326百万円
花卉他 20百万円

重点実施事項 ①

米の集荷率向上に向けた新たな販売流通の仕組みづくり

数値目標等
(3カ年)

【実需者直接販売】

集荷目標 「里海米」 160俵(3年後)
「つやきらり」 1,200俵(3年後)

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等のニーズ把握による新たな販売流通の取組提案を行い、JA岡山米の集荷率向上に繋がります。
- ・「里海米」の有利販売に向けた実需者との結び付き強化を図ります。
- ・「つやきらり」の普及拡大に伴う新たな販売流通の仕組みづくりに取り組みます。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実とニーズの把握による特色のあるJA岡山米の作付推進と販売強化により、計画安定出荷に取り組む。
- 本所米穀課との情報共有と「買取米契約販売」の取組強化により販売高向上に繋げる。

令和7年度		令和8年度		令和9年度	
集荷目標		集荷目標		集荷目標	
「つやきらり」		「里海米」 80俵 「つやきらり」 960俵		「里海米」 160俵 「つやきらり」 1,200俵	
100俵					

重点実施事項 ②

㊦青果物の集荷率向上と スケールメリットを活かした販売流通

数値目標等 (3カ年)

【重点取引市場(9社)年間取扱高】 380t・4億円
 【内訳】 <野菜> 180t【全出荷量の9割】・0.6億円
 <果実> 200t【全出荷量の10割】・3.4億円
 【販売担当国会議】 8回/年
 【農産物消費宣伝PR活動】 3回/年

具体的方策

- ・㊦青果物の産地間連携による重点取引市場への集約と長期安定出荷による再生産価格の確保に取り組みます。
- ・園芸販売担当国会議での情報共有により販売担当者の資質向上に努めます。
- ・青果物の販売促進PR活動による㊦ブランドの認知度の向上を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 定期的な市場視察による販売状況の情報収集と市場担当者を目揃え会等に招き、品質、生産状況の情報を共有し、安定取引と有利販売に繋げる。(各生産部会1回/年)
- 重点取引市場との結び付き強化に向け生産目標と販売計画の情報共有を図る。
- 生産部会協議会及び園芸担当国会議により販売情勢等の情報を共有し、担当者レベルの向上を図る。
- 県内外重要取引市場へ出向き、市場担当者向けに㊦ブランドのPR活動を行う。

令和7年度

- 園芸主要産地における生産出荷販売の状況把握と課題解決に向けた情報整理を行う。

令和8年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

令和9年度

- 園芸主要産地への課題解決に向けた問題提起と連携強化により、集出荷率向上に繋げ、販売高向上を目指す。

【営農指導体制の充実】

重点実施事項 ①

営農指導の充実による「よりよい営農活動」の実践

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員訪問活動件数(月間)】	30件以上/名
【法人化支援】	3経営体
【TACミーティング】	1回/月
【GH農場評価員認定取得】	2名(3カ年)
【営農指導基礎研修会】	2名参加/年

具体的方策

- ・農業法人、担い手経営体等への訪問活動の充実と農家ニーズの把握による営農指導体制の強化に取り組みます。
- ・担い手経営体の経営基盤強化に向けた法人化支援に取り組みます。
- ・営農センター、本所、関係機関との情報共有と連携による営農指導体制の強化を図ります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- TAC指導員活動による農家ニーズの把握と情報提供による結び付きの強化を図る。
- TAC指導員による訪問活動を通じて担い手経営体等のニーズの把握と法人化に向けた支援を行う。(1経営体/年)
- TACミーティングを定期的で開催し、営農指導活動の情報共有を図る。
- 本所(営農部・経済部)と営農センターとの営農指導事業に係る連携強化とTAC指導員活動の見える化に取り組む。
- OGH農場評価制度を活用し、営農アドバイザーとしての営農指導技術のスキルアップを図る。
- 各種研修制度を活用し、営農センター新人職員の営農指導基礎知識の習得とレベルアップを図る。



重点実施事項 ②

営農振興計画実践状況の見える化

数値目標等
(3カ年)

【TAC指導員課題実践】

1課題/名(3カ年)

【営農振興計画実践報告会】

4回(年間/四半期)

具体的方策

- ・地域農業の現状把握と営農振興計画に基づき、TAC指導員課題実践活動目標の設定を行い、「よりよい営農活動」の実践に繋がります。

各年度の行動計画

令和7年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和8年度 ▶ ▶ ▶ ▶ 令和9年度

- 営農振興計画に基づきTAC指導員課題実践の活動目標を1人1課題で設定し、実践報告会を通じて取組状況の把握(四半期毎)と実施内容の検証、次年度に向けた課題の検討を行い、営農振興計画の実践状況の見える化を図る。
- 営農センター内・本所間との取組状況、内容検証、次年度に向けた課題等の情報共有により「よりよい営農活動」に繋げる。



VI

地域くらし活性化計画



since2000

地域によろこびの
種をまく



1. 基本方針

豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向け、総合事業の機能・役割を発揮し、組合員との関係強化を図り「地域の活性化」に取り組みます。

また、食と農を基軸とした地域に根ざした事業活動を通じ、JAの仲間づくりに取り組み、組織基盤の強化を図ります。

2. 過去3年間(令和4年度～6年度)の実績

令和4年度からの3カ年で、以下の重点取組事項を通して、組合と組合員、地域住民が相互扶助の理念の共有化を図り、組合事業への理解と参加が得られるよう取り組みました。

(1)「食」と「農」を基軸とした地域コミュニティの活性化

女性部・生産者組織・青壮年部との連携により、食農教育の場を作り、地元農産物への理解促進と消費拡大に取り組みました。

【実績】・食農イベント「家族でチャレンジ!デイキャンプ」

参加人数	(令和5年度)	1会場	24名
	(令和6年度)	1会場	32名

・「親子料理教室」・「ちゃぐりんフェスタ」

参加人数	(令和4年度)	10会場	256名
	(令和5年度)	14会場	539名
	(令和6年度)	14会場	390名

・地域内交流会

参加人数	(令和4年度)	1会場	92名
	(令和5年度)	1会場	120名
	(令和6年度)	1会場	120名



(2) 総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮

①JAの総合事業を活かし、組合員と地域住民が安心して暮らせる地域づくりに貢献しました。

【実績】・組合員健康診断の実施

受診者数	(令和4年度)	31会場	944名
	(令和5年度)	29会場	918名
	(令和6年度)	28会場	857名

・年金相談会の実施

相談者数	(令和4年度)	20会場	91名
	(令和5年度)	22会場	80名
	(令和6年度)	23会場	79名

・住宅ローン相談会の実施

相談者数	(令和4年度)	42会場	64名
	(令和5年度)	21会場	71名
	(令和6年度)	23会場	79名

・所得税等確定申告相談会の実施

相談件数	(令和4年度)	JA岡山各支所	2,513件
	(令和5年度)	JA岡山各支所	2,563件
	(令和6年度)	JA岡山各支所	2,421件



②組合員や地域住民が健康で安心して暮らせるよう、行政・他団体との連携により高齢者支援に取り組みました。

【実績】・ミニデイサービス

参加人数	(令和4年度)	未開催
	(令和5年度)	8回 130名
	(令和6年度)	10回 189名

・サロン

参加人数	(令和4年度)	28回 321名
	(令和5年度)	92回 1,116名
	(令和6年度)	71回 946名

・地域の茶の間「みんなのお家（うち）」

参加人数	(令和4年度)	9回 111名
	(令和5年度)	43回 479名
	(令和6年度)	33回 403名



(3) 支所などを拠点とした「JAくらしの活動」の実践

支所・営農センターを拠点に「JAくらしの活動」を実践し、組合員や組合員家族、地域住民との顔の見える関係づくりに取り組みました。

【実績】 ・ 地域ふれあい活動（地域のふれあいまつり・清掃活動への参加など）

実施件数 （令和6年度） 99件 47部署

・ 地域活性化イベント（防災イベント、ウォーキング大会）

参加人数 （令和6年度） 4会場 214名



(4) 正・准組合員とのメンバーシップの強化

①地域住民の協同組合への理解を深める活動を展開し、女性部組織などの活性化に取り組みました。

【実績】 ・ JA岡山女性部 20支部 2,162名

（フレッシュミズ 4支部 42名）
（令和6年度）

②次世代を担う女性リーダーを育成するとともに、新たなJAファンづくりに取り組みました。

【実績】 ・ 女性大学（きらめ輝カレッジ）開催

受講者数 （令和5年度） 4講 148名
（令和6年度） 3講 45名

③広報誌「ぱれっと」およびホームページやSNS等により「JAくらしの活動」について紹介することで、地元農業応援団づくりに取り組みました。

【実績】 ・ 広報誌「ぱれっと」発行（毎月）

（令和4年度）	ホームページ掲載	18回	SNS等投稿	311回
（令和5年度）	ホームページ掲載	18回	SNS等投稿	226回
（令和6年度）	ホームページ掲載	25回	SNS等投稿	261回

④准組合員加入申込時に、組合の事業・活動や地域農業についての説明を行い、「地域の農業振興を応援する意思」を確認し「地域農業振興の応援団の拡大」に取り組みました。

【実績】 ・ 応援賛同者数 （令和4年度） 900名
（令和5年度） 868名
（令和6年度） 870名



- ⑤地域に根差したJAを目指し、正組合員および地域農業振興の応援団である准組合員に対してその声をJA運営に反映することを目的に「組合員のメンバーシップに関するアンケート」を実施しました。

【実績】 ・ アンケート回答数 （令和6年度） 正組合員404名（抽出数 800名）
准組合員646名（抽出数 1,600名）

- ⑥男女共同参画社会形成のため、女性活躍を含む多様性の推進に取り組みました。

【実績】 ・ 「男女共同参画のつどい in 岡山」開催（毎年）



3. 重点取組事項(令和7年度～9年度)

(1) 「食」と「農」を基軸とした地域コミュニティの活性化

- ①女性部・生産者組織・青壮年部や行政・企業と連携し食農教育の場をつくり、地元農産物への理解促進や消費拡大に取り組みます。

【取組具体策】 農業体験学習・親子料理教室・
地域内交流会の開催など。



- ②地域とのふれあいや地産地消と農家所得の向上のため、農産物直売所を基軸としたイベントを開催し、地域住民との交流により「にぎわいの創出」に取り組みます。

【取組具体策】 農産物直売所でのイベント開催。



（２）総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮

- ①JAの総合事業を活かし、組合員と地域住民に様々なサービスを提供し、安心して暮らせる地域づくりに貢献します。

【取組具体策】 組合員健康診断の実施、税務・ローン・年金相談会、相続セミナーの開催など。

- ②組合員や地域住民が健康で安心して暮らせるよう健康寿命を創造する「JA健康寿命 100 歳プロジェクト」を実践するとともに、行政・他団体との連携により高齢者支援に取り組みます。

【取組具体策】 ミニデイサービス・サロン・「みんなのお家（うち）」の開催など。

（３）支所などを拠点とした「JAくらしの活動」の実践

支所・営農センターを拠点として、地域特性をふまえたニーズ、ライフスタイルに応じた「JAくらしの活動」を実践し、組合員や組合員家族、地域住民とともに地域を元気にする活動に取り組みます。

【取組具体策】 地域ふれあい活動の実施。（地域のふれあいまつりへの参加、支所グループによるふれあいイベント・グラウンドゴルフ大会の開催など）

（４）正・准組合員とのメンバーシップの強化

- ①地域住民の協同組合への理解を深める活動を展開し、女性部組織などの活性化に取り組みます。

【取組具体策】 女性部・フレッシュミズの活動紹介や加入促進など。

- ②次世代を担う女性リーダーを育成するとともに、新たな JA ファンづくりに取り組みます。

【取組具体策】 女性大学（きらめ輝カレッジ）の開催。

- ③地元生産者と女性部の連携による活動を発信し、地元農業応援団づくりに取り組みます。

【取組具体策】 広報誌「ぱれっと」およびホームページや SNS 等を活用した「JAくらしの活動」の紹介。



- ④JA利用者に准組合員加入を働きかけ、「地域農業振興の応援団の拡大」に取り組みます。

【取組具体策】 准組合員加入申込時に、地域農業振興を応援する意思を確認。

- ⑤男女共同参画社会形成のため、女性活躍を含む多様性の推進に取り組みます。

【取組具体策】 「男女共同参画のつどい in 岡山」の開催、女性参画に対する理解促進活動の実施など。



令和7年7月発行

企画・編集／岡山市農業協同組合 営農部

〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1

TEL086-225-3224

印刷製本 ノーイン株式会社

